

令和 8 年 度

事務事業点検・評価報告書

(令和 7 年度実施事務事業分)

明日香村教育委員会

目 次

1	はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2	点検評価について・・・・・・・・・・・・・・・・	2
3	点検評価結果	
	◆幼小中一貫教育推進事業・・・・・・・・	6
	成果指標（一貫教育）	
	◆学校・地域コミュニティ事業・・・・・・・・	8
	◆放課後児童健全育成事業・・・・・・・・	9
	◆学校教育活動支援事業・・・・・・・・	10
	成果指標（学校教育）	
	◆児童生徒学力等調査事業・・・・・・・・	12
	成果指標（学力）	
	◆児童生徒体力・運動能力等調査事業・・・・・・・・	14
	成果指標（体力）	
	◆学校施設整備事業・・・・・・・・	16
	◆いじめ・不登校対策等生徒指導事業・・・・・・・・	17
	◆ICT教育の充実・・・・・・・・	18
	◆安心して子どもを育てられる環境づくり・・・・・・・・	19
	◆学校給食の充実・・・・・・・・	20

■青少年事業

子どもわくわく教室・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 2

20歳を祝う会・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 3

■国際理解教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 4

■人権教育推進事業・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 5

■総合型地域スポーツ運営支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 6

■飛鳥ハーフマラソン・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 7

■社会体育施設・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 8

■中央公民館講座・活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2 9

■図書室管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 0

★文化芸術事業

芸術文化の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 2

★発掘調査事業

文化財の調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 3

★保存整備活用事業

文化財の保存と活用・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 4

★飛鳥の魅力発信事業

明日香村歴史資産の魅力発信・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 5

4 まとめ

◆学校教育について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 6

■生涯学習について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 7

★文化財について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 8

5 学識経験者の知見の活用・・・・・・・・・・・・・・・・ 3 9

1 はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、教育委員会は、毎年その権限に属する事務の管理及び執行状況について点検及び評価を行い、その結果を報告書として作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

これを受け、明日香村教育委員会は、効果的かつ効率的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たせるよう、教育委員会の活動及び事務の点検評価を行い、報告書を作成しました。

この報告書は、毎年作成し公表していますが、明日香村教育委員会としては、今後も報告書の内容充実に努め、村民に分かりやすいものにするために、必要な検討を加えていくこととしています。

また、点検評価の実施を通じて、教育施策の検証と改善を図りながら、本村教育行政の着実な推進につなげていきたいと考えています。

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検評価について

(1) 目 的

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、明日香村教育委員会がその権限に属する事務の管理および執行の状況について点検および評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、村民への説明責任を果たすことを目的とする。

(2) 対象・基準

教育委員会所管の予算事業の中から後述の下記の4つの条件のいずれかに該当する事業を対象として、事業ごとにその継続性・効果性・効率性について基本的な評価を行い、これをもとに今後の方向性として総合評価を行った。

- ①新規事業
- ②規模を拡大した事業
- ③今後の事業継続をするに当たり工夫が必要だと思われる事業
- ④教育委員が必要と認める事業

(3) 評価基準

①基本評価の基準は次のとおりである。

評価基準	評価内容	
継続性 (事業を継続すべきか)	A	・村民等のニーズが高く・継続すべき事業である
	B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる
	C	・村民等のニーズはあるが、時代の変化に適応しなくなっている部分がある
	D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である
効果性 (成果を挙げているか)	A	・十分な成果を挙げている
	B	・一定の成果を挙げている
	C	・一部に対して成果を挙げている
	D	・成果が見られない
効率性 (実施方法は適切か)	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない
	B	・実施手法は適切である
	C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である
	D	・見直しが必要である

②総合評価の基準は次のとおりである。

総合的な評価・評価基準			
今後の方向性	拡 充	A	十分な事業水準にあり、かつ将来への必要度も高く、今後も拡充が必要
	継 続	B	一定の事業水準にあり、今後も更なる効率化を図りつつも、現在の事業水準を維持
	見直し	C	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等見直しが必要
	廃 止	D	事業を廃止（または休止）

③事務事業点検評価シート

教育委員会が行った事務事業について、点検・評価を行った結果と今後の方向性を記しています。

④事務評価委員の評価について

事務事業の点検及び評価の実施について、その責任の明確化、体制の充実、成果の向上を図るため、学識経験者2名に事務評価委員を委嘱し、教育委員会が点検及び評価した結果についてご意見等をいただきました。

⑤議会報告について

教育委員会において報告書を作成し、村議会に報告します。

(4) 結果

明日香村教育委員会は事業の点検及び評価を行うにあたって、明日香村の学校教育の指導方針に基づき事業を適切に執行しているかを基本に評価を行った。

今回評価を行った事務事業の点検及び評価結果は以下のとおりである。

①実施事業の総合評価（今後の方向性）

評価基準			該当事業計
拡充	A	十分な事業水準にあり、かつ将来への必要度も高く、今後も拡充が必要	2
継続	B	一定の事業水準にあり、今後も更なる効率化を図りつつも、現在の事業水準を維持	18
見直し	C	事業の必要性はあるが、その手法・執行体制等見直しが必要	4
廃止	D	事業を廃止（または休止）	0
合 計			24

学校教育

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	幼小中一貫教育推進事業	費目	事務局費
目 標	学校独自の特色ある教育活動や先進的な取り組みを促進する。		

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①		単位	目標	別 紙				
			実績					

事業の目的	「郷土に誇りをもち、自らの生き方を切り開くたくましい子どもの育成」、「夢に向かって力強く生きていく意欲ある人づくり」を基本理念とし、家庭・学校・地域が協働して村ぐるみで子どもを育てる環境を創り、12年間を見通した一貫教育のカリキュラムや指導法、連携のあり方を研究・実践する。							
事業の内容	12年間の継続した学びを育てるため幼小中の教員が連携し、一貫教育推進委員が中心となって言語力、英語教育、郷土学習を一貫教育の3本柱と位置づけ、実践を進めた。また基本的な学習規律の徹底と生活習慣の徹底を図るため発達段階に応じた目標を掲げ取り組んだ。 ・明日香幼稚園：がんばりっ子5つの約束 ・明日香小学校：学習キラリ7か条 ・聖徳中学校：あ・じ・み・こ・し、あ・す・か 地域との連携の中で、学校・地域コミュニティの協力を得ながら、あいさつ運動をはじめとして学校・園への支援活動を充実させた。							
成 果	中学校教員の小学校への乗り入れ授業により、小学校高学年における専門教育を充実させるとともに、学級担任制から教科担任制への円滑な移行が図れるよう取組を進めた。 中学校の文化祭では12年間積み重ねてきた郷土学習の集大成として、3年生が明日香の歴史、伝統・文化、自然、くらしの分科会に分かれて現在の明日香村がかかえる課題や問題について調査し、未来の明日香村に向けて村長への提言として発表した。 幼小中一貫教育の第4ステージ（令和5年度～令和8年度）における研究テーマを「問題解決能力の向上を目指して」と設定し、実践研究を継続した。 学校運営協議会の開催により、学校教育に対して保護者・地域が積極的に参画・協働していただくことができた。							

基本評価	評価基準	評価内容			評価	
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である			B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる			
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある			
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である			
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・十分な成果を挙げている			B
		B	・一定の成果を挙げている			
		C	・一部に対して成果を挙げている			
		D	・成果が見られない			
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない			C
		B	・実施手法は適切である			
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である			
		D	・見直しが必要である			
課題		幼小中の教職員が一堂に会し、年4回の合同研修を実施することで、こどもの発達段階に応じた指導法を互いに研修することができ、こども理解につながっている。また、教職員の明日香についての認識を深めることができています。 問題解決能力の育成をテーマとして令和5年度より取り組んでいる。自ら課題を設定し解決に向かえる力を育成することで、発信する力、表現する力のさらなる向上を図りたい。				
総合評価	評価	今後の方向性				
	B	教育内容の質的向上、教員の専門性強化と連携促進、地域社会との連携強化、そして地域文化の継承という多岐にわたる側面から取り組み、地域とも連携しながら地域に開かれた幼小中一貫教育の取り組みができています。				

評価委員の意見	幼小中一貫教育の第4ステージを見据え、校種を越えた混在グループによる授業研究や、小中相互乗り入れ授業を実践したことは、教科担任制への円滑な移行と「問題解決能力」の育成に大きく寄与している。 また、学校運営協議会の開催により保護者や地域との積極的な参画・協働体制が構築され、地域資源を活かした「世界遺産学習副読本」の完成に至ったことは、コミュニティ・スクールとして優れた成果である。 今後は、3教科で得られた授業改善のノウハウを他教科へ波及させるとともに、完成した副読本を効果的に活用した研修・授業実践を継続し、令和8年度の最終評価に向けた成果の可視化を期待します。			
---------	--	--	--	--

(出典：明日香村教育委員会)

事業の成果や効果を示す指標名 (説明)	単位	R 5						R 6						R 7					
		目標値			実績値			目標値			実績値			目標値			実績値		
	%	幼	小	中	幼	小	中	幼	小	中	幼	小	中	幼	小	中	幼	小	中
自分の考えを表現できる児童生徒（園児）の割合 （「相手にわかるように自分の考えや気持ちを話している」の肯定的回答割合）		80.0	80.0	80.0	98.0	85.6	77.2	80.0	80.0	80.0	97.0	85.9	79.1	80.0	80.0	80.0	94.0	89.0	89.4
郷土（明日香）への意識・親しみ度 （「地域のことに興味がある・家庭で話す」の肯定的回答割合）		80.0	80.0	80.0	43.0	81.1	71.9	80.0	80.0	80.0	74.0	77.4	76.8	80.0	80.0	80.0	44.0	74.7	68.2
進んで挨拶ができる児童生徒（園児）の割合 （「誰に対しても自発的に挨拶ができています」の肯定的回答割合）		80.0	80.0	80.0	84.0	77.3	80.7	80.0	80.0	80.0	88.0	71.7	76.7	80.0	80.0	80.0	85.0	83.2	85.9

【対象・集計方法】

（肯定的回答をした児童生徒・園児の数 ÷ アンケート回答者数）× 100

（「明日香村が好き・関心がある」と回答した児童生徒・園児の数 ÷ アンケート回答者数）× 100

（「自分から進んで挨拶をしている」と肯定的に回答した児童生徒・園児の数 ÷ アンケート回答者数）× 100

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校・地域コミュニティ事業	費目	事務局費
目 標	地域との協働による教育活動を通じて、児童生徒の社会性や協調性を育む。		

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	ボランティア登録者数	単位	目標	200	200	200	200	200
		延べ人数	実績	192	186	177		

事業の目的	学校(園)運営に関して保護者及び地域住民の学校運営への参画の促進や連携強化を進めることにより学校(園)と保護者、地域住民の信頼関係を深め一体となって学校運営の改善や幼児・児童・生徒の健全育成に取り組む。
事業の内容	学校運営協議会を開催し、学校園の現状を理解・共有し、課題解決に向けて取り組んだ。 学校地域コミュニティ協議会と連携し、地域ぐるみの朝のあいさつ運動でこどもと地域住民の距離を縮める取組とした。またボランティアによる学校(園)への支援活動を行った。内容としては以下の通り。 幼稚園(草刈り、栽培、おやつ作り、雑巾づくり) 小学校(草刈り、栽培、図書室支援、家庭科実習、読み聞かせ、学習支援教室) 中学校(草刈り、学習支援教室) 保護者の交流を図る場として学校運営協議会と学校地域コミュニティ協議会共同で講演会を企画した。
成 果	学校運営協議会の開催により各校園の現状や課題を深く共有・理解し、地域一体となった課題解決を推進した。 朝のあいさつ運動での絆づくりに加え、登録者数177名にのぼる協力ボランティアが各校園のニーズに応じた多角的な活動を展開し、教育環境の充実を支えた。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
D		・見直しが必要である		
課題		幼稚園、小学校、中学校を一つの学校運営協議会で携わることができ一貫教育を進める上でも効率が良い。それぞれの学校現場から見えてくる課題に対して、すぐに対応できる連絡体制を構築するために、地域学校協働活動推進員の活動拠点となる場所の確保が必要と思われる。 地域連携については協力依頼等の連絡手段としてスクリレを活用しているが、登録者が半分にも満たない状況であるので、改善を目指したい。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	地域連携については学校（園）協力ボランティアが177名の方の協力を得ることができ、小学校においては授業の見守りボランティア等のニーズにも迅速に対応していただくことができた。		

評価委員の意見	授業参観を通じ子どもたちの現状を肌で感じられたことは、実態に即した評価を行う上で大変有意義であった。また、ボランティア登録者が177名に達し、多様な立場から手厚い学校支援が行われている点は、地域協働の優れた成果である。「集い」においてビデオレターで感謝を伝えた取組は、ボランティアの意欲向上につながる心温まる活動であり、今後もこの絆の維持・発展を期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	放課後児童健全育成事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	児童の利用率	単位	目標	50	50	60	70	70
		%	実績	30.6	37.4	54.8		
式	1日あたりの年間平均利用者数 例：5,000名÷260日 19.23名/日 年間参加率 例：19.23名/日÷45名×100% 42.7%							
説明	年間延べ利用人数を年間の開所日数で割ります。 1日あたりの年間平均利用者数を、年間の平均在籍児童数で割ります。							

事業の目的	子育て世代に対し、安心して子供を産み、育てられる環境づくりや経済的支援を行うとともに、学校・保護者・地域が連携し、それぞれの役割を適切に果たしながら一体となつて子どもを育てようとする心を培う。
事業の内容	・就労等の理由により、保護者が昼間家庭にいない小学生を対象に、安心安全で、適切な遊びと生活の場を提供し、児童の健全な育成を保護者の子育て及び仕事の両立を支援する。 ・通年利用：50人、夏期のみ利用：13人 ・開所日時：平日（月曜～金曜） 授業終了後～19時 土曜日・長期休暇 7時30分～19時
成果	支援体制の充実、運営 ・支援員が認定資格の取得や研修に積極的に参加し、専門性の向上に務めたことで、子どもへの対応力や安全管理意識の向上につながっている。 ・平日の利用者が昨年を上回り、保護者や地域からのニーズに応えられている。 ・椅子を使う机のある室内配置に変えていったことで落ち着いた学習活動環境の確保ができ、姿勢改善にもつながっている。 ・遊びの環境づくりを重視した放課後の生活を通して、発達段階に応じた主体的な遊びや生活ができ、子どもたちが安心して過ごせ、遊びを通じた成長や居場所づくりの質を高めている。 ・シフト制の中でも支援員同士が常に連携を意識し、継続的な育成支援が実施できている。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		常勤職員の配置：シフト制による運営のため、日常的な運営管理や支援方針の統一に継続した取り組みが必要。特に運営管理や人材育成の中核となる常勤職員が不在であることから常勤職員の配置を進め、より安定した運営体制の構築を目指す。 定員：今年度利用定員を10名増やしたが、年々低学年の保護者の就労が増えているので定員を超えることも見込まれ、長期休業中の利用などに課題が残る。 人材確保・育成：利用児童数の増加や配慮の必要なこども、長期休業中の受け入れ強化に対応するため、継続的な人材確保と育成体制の強化、質の高い支援を更に図っていくことが必要である。		
総合評価		今後の方向性		
	B	保護者の就労や社会情勢に対応し、こどもを「預かる場所から、こどもの育ちと居場所を支える」から「育成支援」へ重視する方向へ進み、多様なこどもを受け入れる支援体制づくりが重要視される。		

評価委員の意見	支援員の資格取得や研修参加により専門性・安全管理意識が向上し、シフト制の中でも密な連携によって質の高い育成支援が継続されている点を高く評価する。平日利用者の増加という地域ニーズに応えつつ、室内レイアウトの工夫により落ち着いた学習環境と安心して過ごせる居場所づくりを両立できている。今後は、子どもたちの発達段階に応じた主体的な遊びや生活の充実をさらに進め、放課後の健全育成事業のさらなる質の向上を期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校教育活動支援事業	費目	小学校費、中学校費
目 標	個に応じたきめ細やかな指導を可能にするための支援を行う。 多様な学習機会を提供し、児童生徒の興味関心や探求心を育む。		

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①		単位	目標	別 紙				
			実績					

事業の目的	12年間の一貫した教育課程（幼小中一貫教育）により、自ら考え、取り組み、学びを深める子どもの育成をめざす。 教員の専門性向上と多様な教育ニーズへの対応、および教員の業務負担軽減を目的とする。 ・ 少人数学級編成の継続 ・ 教科指導の充実と専門性の確保 ・ 多様な学習ニーズへの対応と特別支援教育の充実 ・ 教員の業務負担軽減と教育環境の改善	
事業の内容	質の高い教育を提供し、すべての児童生徒が安心して学び、成長できる学校環境を構築するため	
	教科充実・担任講師の配置	特定の教科の専門性を持つ教員や、担任として学級運営を担う教員を配置することで、授業の質の向上と安定した学級経営を支援
	学校教育指導主事の配置	学校への専門的な指導・助言を行う指導主事を配置し、教育課程の編成、学習指導、生徒指導など、学校運営全般にわたる教育の質の向上をサポート
	外国語指導助手の配置	外国語（主に英語）の専門家を配置し、ネイティブスピーカーならではの指導や国際理解教育を推進
	通級指導員の配置	通常学級に在籍しながらも、発達上の課題などにより特別な指導を必要とする児童生徒に対し、個別または少人数での指導を行う専門員を配置
	特別支援員の配置	個別の支援を必要とする児童生徒に対し、学習面や生活面でのサポートを行う補助員を配置し、きめ細やかな支援体制を確保
	日本語特別支援員の配置	日本語指導を必要とする外国人児童生徒に対し、日本語能力の向上や学校生活への適応を支援する専門員を配置
教員業務支援員の配置	授業準備、採点補助、印刷物作成、データ入力など、教員の多岐にわたる事務的業務をサポートする職員を配置し、教員が児童生徒への指導や授業改善に専念できる環境を整備	
成果	■幼児期から、明日香村ならではの地域資源（自然、歴史、文化財など）やALTを活用した独自の郷土学習や英語教育を受けることができ、豊かな感性や探求心、郷土への愛着、国際感覚を育んでいる。単なる知識の習得だけでなく、子どもの心身の健やかな成長と個性の伸長に寄与していると考えられる。 ■教員が児童生徒一人ひとりと接する時間を多く確保することができるようになり、個々の学習状況や理解度、性格、課題などをより詳細に把握しやすくなっている。これにより、一人ひとりに合わせた指導や支援の充実、学力向上や学習意欲の向上につながっていると考えられる。特に、学習に困難を抱える児童生徒や、特別な支援が必要な児童生徒への対応を丁寧に行うことができた。	

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・十分な成果を挙げている	B
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	
課題	■教員不足と少人数クラス編成の維持 児童生徒一人ひとりにきめ細やかな指導が行き届くよう、少人数クラス編成を推進してきている。しかしながら、近年、全国的に深刻化している教員不足は、本村においても例外ではなく、採用活動の強化や定着支援など、様々な対策を講じているが、教員数の確保が大変厳しい状況が続いている。このような状況を受け、現状の教員配置では、従来の少人数クラス編成を維持することが困難になっており、一部学年のクラス編成の見直しを行わざるを得ない状況である。 ■教育スキルを開拓する必要性 GIGAスクール構想が令和元年に打ち出され、児童生徒1人1台の端末と高速通信ネットワークが整備された。この環境の下でICTを活用した授業や探究的な学習、生徒主体の学びといった現代的な教育手法について研修を重ねてはいるが、児童生徒の多様なニーズや社会の変化に対応した教育の提供には学校全体としては十分ではない。教員一人一人の専門性・ICTスキルの向上や新たな教育観の醸成に向けた研修制度の強化が求められる。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	C	単に人員を確保するだけでなく、「教育の専門性向上」「個別最適化された支援の充実」「教員の負担軽減」という、学校現場における主要な課題に包括的に対応していく。人員配置の最適化に留まらず、教員の専門性を高めるとともに、ICT活用や新たな学習指導法を積極的に取り入れるための研修機会を増やすなど、教員集団全体の意識改革を促す施策を同時に推進していく必要がある。		

評価委員の意見	明日香村ならではの豊かな地域資源やALTを活用した独自の郷土・英語教育は、子どもたちの感性や郷土愛、国際感覚を育む優れた取組である。教員が児童生徒と向き合う時間を確保したことで、一人ひとりの理解度や性格に応じたきめ細かな指導体制が構築され、特に支援が必要な児童生徒への丁寧な対応や学力向上に繋がっている。今後は、個性を伸ばす指導をさらに充実させ、子どもたちの健やかな成長と学習意欲のさらなる向上を期待します。
---------	--

事業の成果や効果を示す 指標名 (説明)	単位	R 5				R 6				R 7				R 8			
		目標値		実績値		目標値		実績値		目標値		実績値		目標値		実績値	
	%	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中	小	中
学習（授業）がよく分かると感じている児童生徒の割合 （「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合）		90.0	90.0	94.4	84.9	90.0	90.0	93.5	94.0	90.0	90.0	98.1	93.1				
学校生活が楽しいと感じている児童生徒の割合 （「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合）		90.0	90.0	91.3	83.9	90.0	90.0	94.9	83.0	90.0	90.0	94.3	77.3				

【対象・集計方法】

（「授業（学習）がよく分かる」と肯定的回答をした児童生徒の数 ÷ アンケート回答者数）× 100

（「学校（園）が楽しい」と肯定的回答をした児童生徒・園児の数 ÷ アンケート回答者数）× 100

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	児童生徒学力等調査事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	学力調査の平均点	単位	目標	別紙				
		点数	実績					
式	平均点＝ $\frac{\text{対象となる児童生徒の合計点}}{\text{対象となる児童生徒数}}$							
説明	テストの満点に対して、平均的にどれくらいの点数を取れたかを示します。							

事業の目的	児童生徒の学力状況や学習に関する実態を客観的に把握・分析し、学校における具体的な課題や、その要因を明確化する。
事業の内容	小学校6年生および中学校3年生を対象とした「全国学力・学習状況調査」に加え、対象外である小学校2～5年生および中学校1・2年生を対象に国語・算数（数学）の学習到達度テストを継続実施し、各学年の基礎学力の定着度合いを計る材料としている。毎年同じ時期に実施することで、各学年の特性や、経年変化を見る資料としても活用が期待できる。 ・学校組織を活かした授業改善の推進 ・小・中連携による系統的な学力の育成 ・確かな学力の定着と向上
成果	小学校3年の国語（83.1）および算数（86.3）、5年の算数（71.3）で全国平均を上回る優れた結果を残した。また、小学校6年の全国学力・状況調査では国語（70.0）、算数（63.0）、理科（66.0）の全3教科において明日香村の数値が奈良県および全国平均を上回る高い水準を記録した。中学校2年においても、国語（73.4）が全国平均と同等の数値を維持するなど健闘が見られる。これらは独自の郷土学習やきめ細かな個別指導・支援が、児童生徒の確かな学力向上や学習意欲の定着に着実に結びついていると考える。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	小学校2年の国語（79.4）や5年の国語（58.4）が全国平均を下回るなど、小学校低・高学年の一部教科において学力の伸び悩みが課題となっている。また、中学校1年の国語（63.7）と数学（60.9）がともに全国平均に届かず、中学校3年の全国学力・状況調査でも国語（53.0）と数学（45.0）が奈良県および全国平均を下回る結果となった。特に中学校期において、学年が上がるにつれて主要教科の平均値が低迷する傾向が見られ、学力定着に向けた指導の充実が急務である。今後は、小中一貫教育の強みを活かした「問題解決能力」の育成や、学習に困難を抱える生徒へのよりきめ細かな個別支援を強化し、全体的な学力の底上げを図る必要があると考える。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	小学校6年の全教科や3年の各教科で全国平均を大きく上回る極めて優れた成果を示した。一方で、小学校5年国語や中学校1年・3年の主要教科において平均を下回るなど、学年や校種による学力のバラつきに課題が残る。今後は一貫教育の強みを活かし、中学校期における学力定着に向けた授業改善と全体的な底上げを目指す。		
評価委員の意見	小学校6年の全教科をはじめ低・中学年の一部で全国平均を大きく上回る優れた成果を上げた点を高く評価します。一方で、小学校高学年の国語や中学校の主要教科において平均を下回るなど、学年・校種による学力のバラつきに依然として課題が残ります。今後は「問題解決能力」の向上を目指した授業研究の成果を全教科へ波及させ、小中一貫教育の強みを活かした効果的な授業改善と全体的な学力の底上げを期待します。			

別紙

(出典：明日香村教育委員会)

指標名		R 5			R 6			R 7			R 8			R 9		
学力調査の平均点		実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率	実績値	目標値	達成率
国語	小 2	78.9	84.4	93%	86.1	82.8	104%	79.4	82.1	97%						
	小 3	77.8	84.0	93%	74.2	81.5	91%	83.1	82.6	101%						
	小 4	69.8	72.3	97%	57.0	66.5	86%	73.3	74.0	99%						
	小 5	71.0	70.6	101%	65.0	62.1	105%	58.4	65.5	89%						
	小 6	63.0	67.2	94%	70.1	67.7	104%	70.0	66.8	105%						
算数	小 2	81.5	85.7	95%	83.6	84.3	99%	83.0	83.6	99%						
	小 3	78.2	81.4	96%	76.6	83.8	91%	86.3	80.8	107%						
	小 4	73.3	67.2	109%	69.8	71.3	98%	70.3	71.4	98%						
	小 5	62.8	64.1	98%	62.4	61.8	101%	71.3	70.7	101%						
	小 6	57.0	62.5	91%	63.2	63.4	100%	63.0	58.0	109%						
理科	小 6	-	-	-	-	-	-	66.0	57.1	116%						
国語	中 1	68.9	72.2	95%	60.0	62.0	97%	63.7	64.6	99%						
	中 2	74.1	73.7	101%	67.1	69.2	97%	73.4	73.4	100%						
	中 3	77.0	69.8	110%	58.9	58.1	101%	53.0	54.3	98%						
数学	中 1	68.9	66.4	104%	65.8	65.3	101%	60.9	62.8	97%						
	中 2	47.4	48.5	98%	46.4	50.0	93%	51.8	57.7	90%						
	中 3	60.0	51.0	118%	56.5	52.5	108%	45.0	48.3	93%						
英語	中 3	55.0	45.6	121%	-	-	-	-	-	-						
理科	中 3	55.0	45.6	121%	-	-	-	53.5	51.5	104%						

指標の達成率の算出方法
 村正答率÷目標値（全国平均など）×100

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	児童生徒体力・運動能力等調査事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）			令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①		単位	目標	別紙			
			実績				

事業の目的	児童・生徒の体力が低下している状況に鑑み、明日香村の児童・生徒の体力・運動能力及び生活・運動習慣等の実態を把握・分析することにより、児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、これらの取組を通じて、学校における児童・生徒の体力・運動能力等の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。					
事業の内容	体力・運動能力に関する調査 新体力テストにより実施する。 生活・運動習慣等の実態に関する調査 生活・運動習慣等の実態に関する質問紙調査を実施する。 学校に対する質問紙調査 児童・生徒の体力・運動能力等の向上に係る取組に関する質問紙調査を実施する。					
成 果	令和7年度は、「反復横とび（敏捷性）」や「ボール投（投力）」、「握力（筋力）」において、特に女子を中心に目標を大きくクリアする優れた成果が見られました。					
	小学5年生	握力（男女とも）	男子102%、女子110%と高い達成率を記録した。全国・県平均を大きく上回っており、児童期における基礎的な筋力が順調に発達していることが伺える。			
		反復横とび（男女とも）	反復横とびにおいて男子103%・女子105%、ボール投において男子105%・女子128%と、いずれも目標値をクリアしている。全国・県平均を大きく上回っており、敏捷性や遠投能力、全身の協調性が非常に優れていることが伺える。			
		長座体前屈・20mシャトルラン	長座体前屈（男66%・女86%）や20mシャトルラン（男81%・女78%）は目標値に届かなかった。全国・県平均を下回る傾向にあり、柔軟性や全身持久力の向上に向けた意識的なアプローチが求められる。			
	中学2年生	上体起こし（男女とも）	男子が達成率100%できっちりと目標値をクリアした。全国・県平均と同等以上の水準を維持しており、日頃の運動を通じた腹筋群の筋持久力が安定して育まれていることが伺える。			
		反復横とび（男女とも）	反復横とびで男子110%・女子116%を記録し、女子は上体起こし（111%）やボール投（109%）でも目標を大きく超過した。全国・県平均を大きく上回っており、特に女子において、筋持久力や敏捷性、投力が非常に優れていることが伺える。			
		50m走・20mシャトルランおよび男子の筋力系	男女共通の50m走やシャトルラン、また男子の握力（90%）やボール投（90%）が目標を下回った。全国・県平均を下回る傾向が見られ、中学生期における走力・持久力の強化や、男子の筋力・瞬発力の底上げが今後の課題として伺える。			

基本評価	評価基準		評価内容	評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	C
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
B		・ 実施手法は適切である		
C		・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である		
D		・ 見直しが必要である		
課題		50m走および20mシャトルランにおいて、小5・中2ともに男女全ての区分で目標値を下回る結果となり、児童生徒期における走力や全身持久力の低下が全体共通の大きな課題となっている。また、小学5年生における長座体前屈の低迷から体全体の柔軟性の不足が顕著に見られるほか、中学2年生の男子においては握力やボール投といった筋力・瞬発力系種目にも伸び悩みが見られる。今後は、これら全国・県平均を下回った種目の克服に向け、体育授業の改善や日常的な運動習慣の定着を図るアプローチが求められる。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	C	調査結果を総括すると、小5・中2ともに「反復横とび」や「ボール投（特に女子）」において目標値を大きくクリアしており、敏捷性や全身の協調性が全国・県平均を上回る優れた成果を示した。一方で、校種や男女を問わず「50m走」と「20mシャトルラン」の数値が低迷しており、走力および全身持久力の向上が全体の共通課題として浮き彫りとなっている。今後は、これら平均を下回った持久力や柔軟性などの弱点克服に向け、日常的な運動習慣の改善や組織的な体力向上へのアプローチが必要である。		
評価委員の意見		体力・運動能力調査において、反復横とびやボール投などで目標を大きくクリアし、優れた敏捷性や協調性を示した成果を高く評価する。一方で、校種や男女を問わず50m走やシャトルランといった走力・持久力種目の低迷、および小学生の柔軟性不足には依然として課題が残る。今後は全国・県平均を下回った弱点種目の克服に向け、日常的な運動習慣の定着や体育授業の工夫など、組織的な体力向上へのさらなるアプローチを期待します。		

別紙

(出典：明日香村教育委員会)

測定項目	単位			R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
				小 5	中 2	小 5	中 2	小 5	中 2	小 5	中 2	小 5	中 2
握力	K g	男	実績値	18.4	28.71	17.47	27.54	16.05	25.88				
			目標値	16.13	29.02	16.01	28.95	15.96	28.95				
			達成率	114%	99%	109%	95%	101%	89%				
		女	実績値	17.7	25.25	15.53	22.73	17.08	24.96				
			目標値	16.01	23.15	15.77	23.18	15.61	23.15				
			達成率	111%	109%	98%	98%	109%	108%				
上体起こし	回	男	実績値	18.3	27.1	20	26.96	17.68	26.38				
			目標値	19	25.82	19.19	25.94	19.46	26.09				
			達成率	96%	105%	104%	104%	91%	101%				
		女	実績値	17.65	20.73	17.58	24.09	15.85	24.39				
			目標値	18.05	21.62	18.16	21.56	18.36	21.7				
			達成率	98%	96%	97%	112%	86%	112%				
長座体前屈	c m	男	実績値	38.1	42.95	35.58	50.83	21.73	43.38				
			目標値	33.98	44.16	33.79	44.47	33.88	45.12				
			達成率	112%	97%	105%	114%	64%	96%				
		女	実績値	41.22	43.83	41.42	49.27	32.58	44.78				
			目標値	38.45	46.27	38.19	46.47	38.15	46.99				
			達成率	107%	95%	108%	106%	85%	95%				
反復横とび	点	男	実績値	45.75	61.06	47.95	57.13	42.27	57.56				
			目標値	40.6	51.22	40.66	51.51	40.89	51.64				
			達成率	113%	119%	118%	111%	103%	111%				
		女	実績値	40.35	57.33	40.74	53.27	40.55	53.04				
			目標値	38.73	45.65	38.7	45.65	38.7	45.74				
			達成率	104%	126%	105%	117%	105%	116%				
20m シャトルラン	回	男	実績値	50.85	70.75	55.21	77.91	38.67	75.31				
			目標値	46.92	78.07	46.9	78.98	47.94	78.82				
			達成率	108%	91%	118%	99%	81%	96%				
		女	実績値	38.17	50.33	41.47	70.82	28.38	47.7				
			目標値	36.8	50.7	36.59	50.67	36.85	50.6				
			達成率	104%	99%	113%	140%	77%	94%				
50m走	秒	男	実績値	9.19	8.52	9.36	7.91	9.75	8.49				
			目標値	9.48	8.01	9.5	7.99	9.46	8				
			達成率	103%	94%	101%	101%	97%	94%				
		女	実績値	9.55	9.37	9.87	8.54	9.89	9.28				
			目標値	9.71	8.95	9.77	8.96	9.77	8.97				
			達成率	102%	96%	99%	105%	99%	97%				
立ち幅とび	c m	男	実績値	155.55	194	158.68	192.21	142.82	180.69				
			目標値	151.13	197.02	150.42	197.18	150.93	197.51				
			達成率	103%	98%	105%	97%	95%	91%				
		女	実績値	143.78	168.5	145.05	181.82	136.58	163.43				
			目標値	144.29	166.34	143.13	166.32	142.34	166.44				
			達成率	100%	101%	101%	109%	96%	98%				
ボール投	m	男	実績値	21.2	18.19	25.26	20.26	22.14	18.64				
			目標値	20.31	20.4	20.75	20.57	21.06	20.74				
			達成率	104%	89%	122%	98%	105%	90%				
		女	実績値	14.61	13.08	15.74	14	17	13.29				
			目標値	13.22	12.43	13.15	12.4	13.11	12.43				
			達成率	111%	105%	120%	113%	130%	107%				

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校施設整備事業	費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	修繕要望件数	単位	要望	14	21	8		
		件	実績	27	35	20		

事業の目的	学校施設の改修、点検等を年次計画的に行い、施設の長寿命化を図るとともに学習環境の改善を図る。																		
事業の内容	園児児童生徒が安心・安全に学校生活を送れる環境を確保することを目的に、事故の要因となる学校施設・設備の危険性や、学校生活における行動に伴う危険を早期に発見し、速やかに解消することで、安全な教育環境へ状況に応じて改修工事や設備の更新を行う。 学校施設・設備の安全点検と改善 小中学校の施設・設備について、定期的な安全点検を実施し、危険箇所を特定。 特定された危険箇所に対して、必要な施設整備工事（改修、修繕等）を計画し、実施。 小中学校屋内運動場空調設備整備工事、小学校屋内運動場舞台幕（緞帳）修繕事業 中学校グラウンド防球ネット修繕、中学校職員室エアコン修繕、中学校校内ペンキ塗り替え 幼稚園プールろ過ポンプ交換																		
成果	小中学校屋内運動場への空調設備整備工事をはじめ、各校園の舞台幕や防球ネット、プール設備等の計画的な修繕を適時適切に実施。これにより、児童生徒の安全・安心な教育環境の確保、熱中症対策を含む快適な学習環境を進めることができた。 <table> <tr> <td>小中学校屋内運動場空調設備整備工事</td><td>72,219千円</td></tr> <tr> <td>小学校屋内運動場舞台幕（緞帳）修繕事業</td><td>3,834千円</td></tr> <tr> <td>小学校その他の修繕</td><td>441千円</td></tr> <tr> <td>中学校グラウンド防球ネット修繕</td><td>1,100千円</td></tr> <tr> <td>中学校職員室エアコン修繕</td><td>741千円</td></tr> <tr> <td>中学校校内ペンキ塗り替え</td><td>385千円</td></tr> <tr> <td>中学校その他の修繕</td><td>645千円</td></tr> <tr> <td>幼稚園プールろ過ポンプ交換</td><td>253千円</td></tr> <tr> <td>幼稚園その他の修繕</td><td>481千円</td></tr> </table>	小中学校屋内運動場空調設備整備工事	72,219千円	小学校屋内運動場舞台幕（緞帳）修繕事業	3,834千円	小学校その他の修繕	441千円	中学校グラウンド防球ネット修繕	1,100千円	中学校職員室エアコン修繕	741千円	中学校校内ペンキ塗り替え	385千円	中学校その他の修繕	645千円	幼稚園プールろ過ポンプ交換	253千円	幼稚園その他の修繕	481千円
小中学校屋内運動場空調設備整備工事	72,219千円																		
小学校屋内運動場舞台幕（緞帳）修繕事業	3,834千円																		
小学校その他の修繕	441千円																		
中学校グラウンド防球ネット修繕	1,100千円																		
中学校職員室エアコン修繕	741千円																		
中学校校内ペンキ塗り替え	385千円																		
中学校その他の修繕	645千円																		
幼稚園プールろ過ポンプ交換	253千円																		
幼稚園その他の修繕	481千円																		

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		学校施設の老朽化に伴い、舞台幕や防球ネット、ろ過ポンプなど多岐にわたる修繕需要が継続して発生しており、限られた財源の中で優先順位を見極めた計画的な維持管理が大きな課題である。また、屋内運動場の空調設備をはじめとする大規模な新設・更新工事においては、今後の高額な電気料金や保守点検費用など、中長期的なランニングコストの財政負担も懸念される。今後は、児童生徒の安全確保と快適な学習環境の維持を両立させるため、施設の計画的な長寿命化対策と持続可能な予算確保のスキーム構築が求められる。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	小中学校への空調設備整備や各校園の老朽化箇所の計画的な修繕により、安全・安心で快適な教育環境の構築を着実に進めた。今後は、継続して発生する修繕需要への財源確保や中長期的な維持管理コストを精査し、施設の長寿命化と持続可能な環境維持を両立させる必要がある。		

評価委員の意見	屋内運動場への空調設備整備をはじめ、各校園の老朽化に伴う適時適切な修繕により、児童生徒の安全確保と快適な教育環境の構築を着実に進めた点を評価します。今後は、継続的な修繕需要に対する計画的な財源の確保や、新設設備のランニングコストを見据えた効率的な長寿命化対策の推進を期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名		継続		所管課	教育推進課			
		いじめ・不登校対策等生徒指導事業		費目	事務局費			
事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	いじめ認知件数（年次推移）	単位	目標	0	0	0	0	0
		件	実績	3	2	2		
事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
②	不登校児童生徒数（年次推移）	単位	目標	0	0	0	0	0
		件	実績	4	6	11		
事業の目的		児童生徒が安心して学校生活を送り、健やかに成長できるよう、いじめや不登校の問題に対し、よりきめ細やかな指導や支援を行う						
事業の内容		いじめの未然防止、早期発見、早期対応の強化 いじめを許さない環境を学校全体で作り上げ、いじめが発生した際には迅速かつ適切に対応することで、被害児童生徒の心のケアと加害児童生徒への指導を徹底。 不登校児童生徒への支援の充実 不登校の原因となっている問題の解消に努めるとともに、個々の状況に応じた学習支援や心のケアを行い、社会的自立に向けた支援を行う。また、学校復帰を促すだけでなく、多様な学びの場を提供。 さらに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなどの専門家との連携を強化。						
成 果		いじめ認知件数は小学校で2年連続ゼロ、中学校でも極めて低い件数に抑え、迅速な初期対応と未然防止の体制が定着している。不登校支援においては、専門職（SC・SSW等）の配置による相談体制のもと、個別の支援計画に基づいた別室・短時間登校など児童生徒の状況に応じた柔軟な段階的適応を推進した。さらに、保護者への教育相談や心理的サポートを通じた家庭との連携強化を図るなど、社会的自立に向けた組織的・多面的な支援を展開した。						
基本評価	評価基準	評価内容						評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A ・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である						B
		B ・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる						
		C ・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある						
		D ・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である						
	効果性 (成果を挙げているか)	A ・ 十分な成果を挙げている						C
		B ・ 一定の成果を挙げている						
		C ・ 一部に対して成果を挙げている						
		D ・ 成果が見られない						
	効率性 (実施方法は適切か)	A ・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない						C
		B ・ 実施手法は適切である						
C ・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である								
D ・ 見直しが必要である								
課題		不登校や長期欠席者数が過去最多を更新し高止まりする中、児童生徒が抱える複合的な困難に対し、教員が個別に個別支援計画の策定や保護者対応を行うことが精神的・時間的な大きな負担となっており、専門機関や福祉・医療等との円滑な外部連携による断続的な支援と、校内の指導体制強化が急務である。また、学校に登校できない児童生徒へのオンライン学習支援や居場所の選択肢が限られており、一人ひとりの特性や状況に合わせた柔軟な支援を可能にするため、校内における「学びの多様化」の場（校内教育支援センター等）の設置が強く求められている。今後は、不登校・長期欠席者数や個別支援計画の充実度、外部機関との連携件数等の指標を注視し、児童生徒の社会的自立を支える包括的な環境の構築が喫緊の課題である。						
総合評価		評価	今後の方向性					
		C	いじめ認知件数が小学校で2年連続ゼロ、中学校でも低水準を維持する一方、不登校・長期欠席者数が過去最多を更新し高止まりしている現状は、個々の背景の複雑化を示しており楽観視できない。専門職の配置や個別支援計画による柔軟な対応、保護者支援が進んだ点は高く評価できるが、教員の精神的・時間的負担の増大や、外部機関との断片的な連携、オンライン学習等の選択肢の不足が大きな課題である。今後は教員の体制強化を図りつつ、一人ひとりの特性に応じた柔軟な学びを担保するため、校内における「学びの多様化」の場の設置など、居場所づくりと社会的自立を支える組織的アプローチを具現化する必要がある。					
評価委員の意見		いじめの低水準維持や専門職と連携した個別支援計画の策定、保護者への心理的サポートなど、丁寧な初期対応の体制構築を評価します。一方で、不登校や長期欠席の高止まりに伴う教員の負担増大や外部連携の不足は深刻であり、今後は負担軽減を図りつつ、児童生徒の多様な居場所を確保するための校内「学びの多様化」の場の設置など、組織的で柔軟な受け皿の具体化を強く望みます。						

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	教育推進課
	ICT教育の充実		費目	事務局費

事業の成果や効果を示す指標名(説明)				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	ICT機器整備完了学校割合	単位	目標	100	100	100	100	100
		%	実績	100	100	100		
式	(必要なICT機器整備が完了した学校数) ÷ (対象学校総数) × 100							
説明	ICT環境の整備支援が行き渡っているかを示す指標です。GIGAスクール構想など、情報教育環境の充実に関わる事業で有効です。							

事業の目的	GIGAスクール構想に基づき各児童生徒に整備された1人1台端末を最大限に活用し、情報活用能力の育成を核とした教育DXを推進することを目的としている。
事業の内容	GIGAスクール構想に基づき児童生徒1人1台端末を整備し、各教科等においてChromebookを日常的に活用した授業を展開している。「ロイロノート・スクール」や「ミライシード」、「Google Workspace for Education (ドキュメント、スプレッドシート、スライド)」をはじめとする主要な教育用アプリケーションを積極的に導入することで、児童生徒の情報収集、分析、表現活動を充実させ、主体的な学びを促進している。学校にはICT支援員を配置し、専門的なサポートや個別指導を通じて教員のICT活用スキルの向上を支援している。さらに、国の実証事業である「生成AI英会話システム」の導入や、2月には電子黒板、第2期Chromebook、および校務端末の一斉入れ替えを行うなど、常に最先端かつ安定した教育・校務環境の維持と利活用の促進を図っている。
成果	■端末整備状況(児童生徒に対する整備台数): 100% ■ICT支援員配置: 各校月1回学校へ訪問 GIGAスクール構想のもと整備された1人1台端末(Chromebook)が各教科の授業で日常的に活用され、児童生徒が主体的に情報収集や表現活動を行う姿が定着した。ロイロノートやミライシード、Google Workspace等の教育アプリの積極的な導入により、思考力や表現力を育む質の高い協働学習が展開されている。また、ICT支援員の配置による教員の個別指導やスキル向上が進み、授業におけるデジタル活用の質の向上に大きく寄与した。さらに、国による生成AI英会話システムの実証や、2月に実施した電子黒板、第2期末、校務端末の円滑な入れ替えにより、教育環境の高度化と校務効率化が同時に推進される成果を上げた。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	2月の一斉入れ替えに伴う多様な機器管理やセキュリティ対策の複雑化、および今後の継続的な予算確保が整備面での大きな課題となっている。利活用面では、ICT本来の可能性を引き出す「深い学び」への発展や教員の活用頻度の個人格差、端末更新に伴う新たな操作指導や専門的サポート体制の更なる充実が求められる。また、生成AIなどの先端技術導入に伴い、児童生徒の適切な振る舞いや著作権、個人情報保護といった「デジタル・シティズンシップ」を育む情報モラル教育の体系化も急務である。今後は、協働的な学習への活用度や機器トラブルの解決時間、情報モラル意識調査等の指標を注視し、現場が安心して活用できる環境づくりを進める必要がある。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	GIGAスクール構想に基づく1人1台端末の日常的な利活用が進み、生成AI英会話システムの導入や各種端末・電子黒板のスムーズな更新が図られたことは、主体的な学びを支える環境整備として高く評価できる。一方で、教員の活用スキルの格差や、単なるデジタル置き換えに留まらない「深い学び」への発展、さらには端末更新に伴う管理面の複雑化や予算の継続性確保に課題が残る。今後は、ICT支援員の機能を最大限に活かした専門的なサポート体制の強化と、先端技術の普及に応じたデジタル・シティズンシップ教育の体系化を強く望む。総合的には、ハード面の刷新を確かな学習成果へと結びつけるため、協働・探究学習での活用度などの指標を注視しながら、組織的な指導力の底上げを図る必要がある。		
評価委員の意見	1人1台端末の日常的な利活用に加え、先端技術の実証や各種端末・電子黒板のスムーズな一斉更新が行われたことは、先進的な教育環境の構築として高く評価できる。一方で、教員の指導力格差の解消や「深い学び」への昇華、端末刷新に伴う専門的なサポート体制の維持や機器管理の複雑化には依然として課題が残る。今後は、ICT支援員の有効活用による現場の安心感向上を図るとともに、生成AI等の普及に応じた情報モラル教育を体系化し、ハード面の刷新を確かな学力向上へと結びつけることを期待します。			

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	教育推進課
	安心して子どもを育てられる環境づくり		費目	幼稚園、児童福祉費

事業の成果や効果を示す指標名(説明)				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	わくわくいろいろあそび利用率	単位	目標	60	60	60	70	70
		%	実績	63.7	66.8	68.9		
式	利用者数 = ○名 / ○回 = ○名 / ○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 / ○名) * 100% = ○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							
②	にこにこルーム利用率	単位	目標	60	60	60	70	-
		%	実績	73.4	62.3	63.2		
式	利用者数 = ○名 / ○回 = ○名 / ○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 / ○名) * 100% = ○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							
③	こどものひろば利用率	単位	目標	-	50	50	50	50
		%	実績		36.5	46.1		
式	利用者数 = ○名 / ○回 = ○名 / ○回、1回あたりの利用者数は平均で約○名 利用率 = (○名 / ○名) * 100% = ○%							
説明	利用者数は「のべ利用人数」を「開催回数」で割る 利用率は、この利用者数を園児数で割ることで算出							

事業の目的	幼稚園で思いきり遊ぶことは、子どもの心と体を元気にし、豊かな感性や社会性を育むことにつながるため、子どもの健やかな成長を支えるとともに、保護者の育児負担を軽減することを目指し、幼稚園・保護者・地域がそれぞれの役割を果たしながら、一体となって子どもを育てようとする。
事業の内容	幼稚園で通常保育時間外に子どもを預け、保育をうけることができるようにし、子育て世帯を支援する。また、保育終了後や長期休業中のこどもの遊び場や関わりの場を設ける。 ○「3時保育」：全園児対象 15:00～16:00（月・火・木・金） ※うち年30回程度、総合型地域スポーツクラブ「楽スポあすか」との連携による、「体操」「サッカー」「ボール投げ」の各教室を実施(4,5歳児) ○「にこにこルーム」：3歳児対象 13:15～15:00（実施期間は学期・曜日による） ○「感性教育わくわくいろいろ遊び」：4, 5歳児対象の 15:00～16:30 ○「こどものひろば」：長期休業中の預かり保育 9:00～15:00「こどもの広場」
成果	○遊び場の提供と幼児の成長促進：通常保育後に帰宅した後、近くに友達の家がない、近所に安全な遊び場がない、保護者が付き添えない等の課題に応え、慣れ親しみのある幼稚園の環境で遊ぶことができる。また、幼児教育の専門的な知識・技能をもった保育者とともに遊ぶことで、幼児の社会性や規範意識、コミュニケーション力を育むことができた。 ○子育て支援：標準的な保育時間に加えて幼児を預かることで、保護者の子育ての負担を軽減し、時間的・精神的に余裕をもって子どもに関わることができる機会を保障することにつながった。

基本 評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	実績としては目標相当の成果をあげてはいるものの、令和8年度中はこども園に向けての園改修工事があり、活動範囲の制限が見込まれることや、職員の業務分担などをどのように進めていくかというソフト面の課題も見られる。 令和9年度にこども園開園を迎えるにあたり、保育時間の長時間化、こどもの降園時刻の多様化により、各事業については時間帯・対象者・費用（利用者負担）・事業実施者（団体）・実施場所・担当教員・その他の人材について見直しが必要。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	これまで幼稚園として培ってきた教育の質を保持しながら、新たにこども園としての教育・保育内容を構築していく。その中で職員のスキルアップを図り、地域に根差した公立こども園としての特色を生かしながら、園児の健やかな育ちを支え、保護者の子育て支援につながる取組の再編につなげていきたい。		

評価委員の意見	身近で安全な幼稚園環境での遊びの提供は、専門的な保育者の関わりによって子どもの社会性や規範意識を育むとともに、保護者の時間的・精神的な子育て負担の軽減に大きく貢献している。すべての事業で目標値を上回る利用があり、開園日や時間帯拡大への高いニーズが把握できたことは、今後のこども園開園に向けた就労不安の解消や、異年齢交流による保育の質向上を裏付けるものである。今後は、これらの実績を踏まえ、スムーズなこども園化への移行と、地域の実情に応じたより質の高い教育・保育体制の確立を期待します。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	学校給食の充実	費目	給食センター費
目 標	学校給食摂取基準に基づき、児童生徒に必要な栄養素をバランスよく摂取できる献立を提供する。		

		R 5		R 6		R 7		R 8		R 9	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	決算
財源内訳	事業費	73,440	66,148	107,800	90,804	98,010	91,194				
	国庫支出金	0	9,113	12,369	13,578	10,770	12,050				
	県費	0	0	0	0	0	0				
	地方債	0	0	24,870	24,400	22,500	22,100				
	その他	18,160	8,077	3,700	2,903	3,150	2,978				
	一般財源	55,280	48,958	66,861	49,923	61,590	54,066				
事業の目的		児童生徒に、栄養バランスのとれた給食を安全に提供し、子どもたちの心身の健全な成長に資するとともに、良好な食生活の学びとして食育の推進を図る。									
事業の内容		学校給食センターを適切に運営することによって、子どもたちに安全な給食を提供すると共に、給食を通じて、食育に関する指導の実施や、地場産物の活用を高める等、食育の推進に努める。 ・食育の推進：食材に対する学びの機会として、イチゴ摘みや大根の収穫など現場での収穫体験を行うとともに、その食材を活かした献立により食するまでを学ぶ ・行事食の導入：季節、時事に応じた献立を作成、給食とし、子どもたちの知識向上をはぐくむ（七夕、節句、給食の日など）									
成 果		給食により、発育に必要となる適切な栄養摂取が可能となり、子どもたちの健康の保持増進、適切な身体の育成に寄与する。また、給食食材に可能な限り地場産品を活用することで地産地消を促進するとともに、子ども達の食に関する正しい知識を高め、良好で望ましい食習慣が育成できた。									

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	A
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
B		・ 実施手法は適切である		
C		・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である		
D		・ 見直しが必要である		
課題		アレルギー体質の子ども達の増加とあわせ対象品目の増加も見られる中で、個々の状態に合わせたアレルギー食対応の調理方法と、それに呼応した設備整備および運営形態を検討する。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	給食を通じて児童生徒に対し、食材の村内産農産物の利用を筆頭に収穫体験授業などを通じ、広く食育活動を展開し知識を高めている。		

評価委員の意見	適正な学校給食を提供することで、将来の明日香村を担う子供たちの心身の健全な発達と、食への感謝や正しい知識・習慣を育むことに寄与しています。
---------	---

生涯學習

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	青少年事業	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	子どもわくわく教室利用者数	単位	目標					
		人	実績	384	324	366		

事業の目的	・子どもの下校時の安全確保と地域の大人と子どもの世代間交流の場の提供 ・集団生活を通じて、日常生活の技能や自立心、協力・我慢・感謝の心を育み、地域全体で子どもを育てる
事業の内容	子どもわくわく教室：子どもたちの下校時の安全確保、特に小学1年生が単独学年で下校することがないように下校時間を調節し、複数学年での下校を実施することを目指します。また、地域住民と子どもたちの世代間交流を促進し、地域ぐるみで子どもの安全を見守り、健全育成を図ることを目的に実施。R5:362名、R6:297名、R7:345名 あすか通学合宿：村の子どもたちが家庭を離れて寝食を共にし、集団生活を通じて日常生活の技能や自立心を高め、協力・我慢・感謝の心を育むことを目指します。また、地域の多様な人々が関わることで、地域の大人同士の連携協力を強化し、地域全体で子どもを育てる意識を高めることを目的に実施。R5:22名、R6:27名、R7:21名
成果	両事業とも、地域の関係団体の協力により運営できている。特に、地域住民と子どもたちの世代間交流を通じた、地域の結束力強化に一定の成果がある。

基本評価	評価基準	評価内容	評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A ・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	C
		B ・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C ・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D ・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A ・十分な成果を挙げている	C
		B ・一定の成果を挙げている	
		C ・一部に対して成果を挙げている	
		D ・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A ・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	D
		B ・実施手法は適切である	
		C ・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D ・見直しが必要である	

課題	■子どもわくわく教室 小学校の時間割見直しに伴い、「1年生の単独下校防止のための時間調整」という役割は完了。一方で、本事業の根幹である「地域住民と子どもたちの世代間交流の促進」や「地域ぐるみでの安全見守り・健全育成」については、今後も継続して取り組むべき重要な課題であることから形を変えて実施する。 ■あすか通学合宿 安全管理、健康管理、衛生管理等、多角的なリスク管理が求められるとともに、継続的な実施を支える協力団体・協力者の確保が課題である。 ・R7開催時に警報発令（大雨）
----	---

総合評価	評価	今後の方向性
	C	「子どもわくわく教室」は令和7年度をもって事業終了とする。「あすか通学合宿」については、事業の質的維持と持続可能な運営体制の確立、特に人材確保に向けた体制づくりを進める。

評価委員の意見	課題にどのように対応し、解決策を見出していくかが、事業の継続のポイントになると思われます。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	青少年事業（20歳を祝う会）	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	20歳を祝う会参加者	単位	目標	28	31	35	70%	70%
		人	実績	27	36	41		

事業の目的	成人の日を記念し、社会人としての自覚を高め、これからの人生を力強く自らの判断で歩んでいく20歳を祝い、励ますことを目的とする。
事業の内容	明日香村に住所を有する満20歳の者を対象に、「20歳を祝う会」を開催する。成年年齢が18歳に引き下げられた後も、本村では20歳の節目を祝う事業として実施している。参加申込みはインターネットでの受付を採用し、利便性の向上を図っている。 ※開催日：毎年、成人の日（1月第2月曜日）の前日の日曜日 ※式典のほか、対象者の幼稚園・小学校・中学校の卒業アルバムからお祝いのムービーを作成して上映する。また、当日会場に来ていただいた恩師から一言お祝いの言葉をいただく。最後に参加者全員で記念撮影を行う。
成果	R4年度 参加者数38名/対象者45名 R5年度 参加者数27名/対象者40名 R6年度 参加者数36名/対象者44名 R7年度 参加者数41名/対象者50名 対象者の70%の参加を目標とする。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		成年年齢が18歳に引き下げられた中で、20歳を対象とした式典の意義を参加者に十分に理解してもらう必要があります。また、進学や就職などで転出した対象者への情報発信と参加のきっかけづくりが課題となっています。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	事業の意義を明確に情報発信し、参加意欲の喚起に努める。特に転出者に対しても、明日香村への思いを大切にしながら参加を促すための施策（SNS活用など）を検討する。		

評価委員の意見	成年年齢が18歳に引き下げられた現代において、20歳での開催の意義を再確認し、新成人にとってより魅力的で記憶に残る式典となるよう、「参加意欲の喚起」「効果的な情報発信」「プログラム内容の魅力向上」等に重点を置いて改善を進めることが期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	国際理解教育推進事業	費目	総務費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和５年度	令和６年度	令和７年度	令和８年度	令和９年度
①	明日香の風参加数	単位	応募者数	9	17	13		
		人	実績	9	10	10		
②	日韓の架け橋参加数	単位	応募者数	10	15	17		
		人	実績	10	10	10		

事業の目的	国際的な視野をもって、明日香村の新しい時代を切り拓く人材を育成することを目標に、幼稚園から英語に慣れ親しませながら、一貫性のある指導によって、「明日香に根ざした国際人」の育成を図る。
事業の内容	■明日香の風 村内に居住する中学2年生10名をオーストラリアに派遣し、学校訪問やホームステイを通して英語研修はもちろんのこと、外国の風俗・習慣、文化や自然に触れることで国際理解を深め、コミュニケーション能力を養う機会とすると共に、明日香村の歴史的遺産や自然環境を広く世界にアピールできるグローバルな人材の育成を図る。 ■日韓のかけ橋 聖徳中学校3年生を対象に、10名を韓国の扶餘郡での現地研修や郡内の中学校へ学校訪問する研修生を募集する。明日香村と扶餘郡の歴史的なつながりを理解し、現地の中学生と異文化交流を図る。
成 果	「明日香の風」において、オーストラリアでのホームステイ生活、学校訪問や現地研修の体験を通して交流を深め、文化の違いを肌で感じ、国際理解から郷土明日香をグローバルな視点から情報発信できる人材を育成に寄与していると考ええる。 「日韓のかけ橋」において、明日香村の歴史・文化の源流である百済文化の発祥地「扶餘郡」とのつながりを再確認するとともに、学校訪問や現地研修を通して交流を深め、国際理解から郷土明日香をグローバルな視点から情報発信できる人材を育成に寄与している。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	研修生の人数が10名に限定されているため、選考が難航することがある。人数制限により多くの生徒に貴重な海外体験の機会を提供できていない現状がある。今後は、研修の機会を拡大するとともに、公平かつ円滑なプロセスを確立することが課題である。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	海外研修プログラムを通じて、「明日香に根ざした国際人」の育成を一時的には図れているが、この貴重な経験が研修生のその後、どのような影響を残しているか評価し、フィードバックすることも必要ではないか。		
評価委員の意見	プログラムの質を維持しつつ、より多くの生徒が国際体験の機会を得られるよう、規模の拡大や多様な選択肢の提供に向けた検討を進めていただきたい。			

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	人権教育の推進	費目	人権教育振興費
目標	「人権が尊重される社会の実現」を目指す		

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	人権教育学習講座（参加人数）	単位	目標	200	200	200	200	200
		人	実績	53	114	175		

事業の目的	すべての村民が人権を再認識し豊かな人権感覚を醸成し、人権を尊重する社会の実現に向け、人権教育の推進を図る。
事業の内容	村内関係各種団体が構成する人権教育推進協議会の取り組みとして、多様化・複雑化する現代社会において「人権尊重のまちづくり」を目指し、人と人との「絆」を結ぶための具体的な実践に向けた歩みを進めるため、人権教育学習講座等を実施し、あらゆる人権問題の解決に向けた学びの機会を創出する。 （講座内容）各分野の講師による講演会、映像媒体を使った視聴学習
成果	各種団体が構成メンバーである人権教育推進協議会会員、各大字総代および大字推薦者を対象として人権教育学習講座を実施。令和7年12月～令和8年3月において全4回実施、参加者延べ175人 県人推協や郡人推協等の関連機関が実施する講演会・研修会等の事業にも参加

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	C
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	講座や講演会等の実施において、最近の社会情勢等も踏まえた身近なテーマを題材にするなど村民が興味や関心を持てる内容構成、またより多くの参加が見込める日時設定など、参加者に配慮した事業展開を行っていく必要がある。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	村民の人権における正しい理解と認識を高め「すべての村民が人権を再認識し豊かな人権感覚を醸成し、人権を尊重する社会の実現」という明確な目標を掲げ、取り組み人権教育の促進を図った。		

評価委員の意見	多様な現代社会において、あらゆる人権問題の解決に向け、常日頃から人権意識を高めお互いが尊重しあえる村づくりに向けて、一層貢献できるよう期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	教育推進課
	総合型地域スポーツクラブ運営支援		費目	保健体育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	明日香村民の1割	単位	目標	500	500	500	500	500
		人	実績	512	483	480		

事業の目的	すべての村民がスポーツ活動に参加したくなるよう、運動の楽しさや興味を引き出す環境を整備する。また、体力向上や健康づくりの機会を提供し、仲間づくりや住民交流の場を創出する。さらに、スポーツを切り口として集客を図りながら、明日香の魅力を発信し、地域の活性化を促進する。
事業の内容	【総合型地域スポーツクラブ運営支援】 総合型地域スポーツクラブ「NPO法人楽スポあすか」の運営にあたり、必要な財源の確保と事務局職員の配置、運営にかかる助言指導等を行った。楽スポあすかでは、多岐にわたるスポーツ教室やクラブ活動、部活動の地域展開、イベントなどを実施している。 ＜教室＞ キッズ親子体操、キッズフィットネス、小学生サッカー、小学生ソフトテニス、新体操、チアリーディング（小学生・中学生）、バレーボール、さわやか健康体操、ボディコンディショニング体操、ヨガ、ボルダリング、フットサル、バドミントン、卓球、HIPHOPダンスなど、幅広い年代・レベルに対応した教室を開設している。 ＜クラブチーム＞ 明日香小野球部、明日香村バレーボールクラブ、明日香村グラウンド・ゴルフ協会、明日香村ゲートボール、明日香ソフトテニスクラブなどが活動している。 ＜学校・園との連携＞ 明日香幼稚園や明日香小学校への出前教室を展開し、子どもたちの基礎体力向上や運動の楽しさを伝えている。聖徳中学校へ部活動の外部コーチを派遣し、部活動の充実に貢献している。 ＜中学校部活動の地域展開への対応＞ 全国的に進められている中学校部活動の地域展開に伴い、地域クラブの受け皿となるための体制づくりを進めるとともに、関係機関との調整や実施に向けた準備を行っている。
成果	NPO法人楽スポあすかでは、広く村民がスポーツに親しむ機会を創出し、提供している。また、小中学校からの要請に応じて、専門的な指導者を派遣し、学校教育を支援している。特に、体操、陸上、ダンス、柔道といった教員だけでは対応が難しい授業や部活動においては、専門性の高い指導により子どもたちの成長をサポートしている。 全国的に進められている中学校部活動の地域展開に対応し、地域クラブの受け皿づくりを進めることで、部活動に参加希望する生徒の活動機会を確保し、教育委員会や学校との連携を通じて円滑な移行を実現している。 設立当初から「村民人口の1割を目標」に会員を募集し、村民の皆様の健康維持と体力向上に大きく貢献している。 運営面では、独自の財源確保にも力を入れている。各種補助金の積極的な活用に加え、新規会員や賛助会員を増やすための魅力的な事業展開や教室運営の工夫を凝らしている。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・十分な成果を挙げている	A
		B	・一定の成果を挙げている	
		C	・一部に対して成果を挙げている	
		D	・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・実施手法は適切である	
		C	・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・見直しが必要である	
課題		NPO法人楽スポあすかの安定的な運営 ・20代から30代の成人会員の獲得 ・質の高い指導者や事務局員の確保と育成 ・自主財源の確保 ・部活動の地域展開に対応した事務局体制の強化 ・地域クラブの専門コーチの確保		
総合評価	評価	今後の方向性		
	A	魅力的な事業展開と教室運営の工夫を継続し、質の高い指導者・事務局員の確保と自主財源の確保に取り組む。令和8年度の部活動地域展開に対応するため、事務局体制の強化と地域クラブの専門コーチ確保を優先する。これらの取り組みにより、地域に根差した持続可能なスポーツ振興の基盤を確立します。		

評価委員の意見	多岐にわたる質の高いプログラム、学校教育との密接な連携は、持続可能な地域社会の実現に大きく貢献しており、さらに多くの村民がスポーツを通じて豊かな生活を送れるよう期待します。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	飛鳥ハーフマラソン	費目	保健体育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	エントリー数	単位	目標	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
		人	実績	3,048	3,272	3,355		

事業の目的	明日香村の豊かな歴史的風土と自然環境を活かし、来訪者にとって魅力的な「明日香まるごと博物館」の実現を目指すとともに、スポーツイベントを通じた地域住民の健康増進、村内外の人々の交流促進、および地域経済の活性化に寄与することを目的とする。
事業の内容	令和8年3月8日（日）開催。募集定員3,000名に対し、前回大会よりも早期に定員に達し、3,355名がエントリーした。当日出走者数は2,998名で、完走率は98.2%であった。 事前イベントとして、奈良マラソンとの共催によるランニングイベントや、全国のランナー向けオンラインセッションを開催するとともに、奈良マラソン会場での大会PRも実施した。
成果	ランナー満足度の向上 紙コップなし給水や女性エリアの配慮、沿道からの温かい応援が好評であった。また、名物「あすかるビー」の提供やフェスタも参加者に喜ばれた。 大会の認知度・ブランド力の向上 約1,500の大会の中から「大会100撰」に3年連続で選出され、明日香村の魅力発信と地域ブランド強化に大きく貢献した。 全国、北海道から沖縄まで参加頂いている。 （北海道10人0.30%、東北13人0.40%、関東280人8.40%、中部155人4.60%、近畿2819人84.00%、中国38人1.10%、四国25人0.80%、九州沖縄15人0.40%）

基本評価	評価基準	評価内容	評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A・十分な成果を挙げている	B
		B・一定の成果を挙げている	
		C・一部に対して成果を挙げている	
		D・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B・実施手法は適切である	
		C・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D・見直しが必要である	

課題	■実行委員会事務局の業務負荷の平準化 年間を通じて業務は発生するものの、特に12月から3月にかけて業務量が大幅に増大するため、人員配置の見直しと業務プロセスの改善が喫緊の課題である。 ■大会運営におけるリスク管理（雨天対策） これまで天候に恵まれてきたが、雨天時の会場運営や参加者の安全確保といった不測の事態に備えたリスク管理体制の強化が不可欠である。 ■大会開催と地域コミュニティとの調和 大会の成功は地域住民の協力が不可欠である。開催期間中の住民生活への影響を最小限に抑え、大会への理解と協力を得るためのコミュニケーション強化が重要である。
----	---

総合評価	評価	今後の方向性
	B	大会運営で培ってきた経験やノウハウを確実に継承し、実行委員会事務局スタッフの育成を強化することで、運営体制を盤石にしていく。同時に、大会を支える関係団体、ボランティア、協賛企業との協力関係を継続・強化し、多角的な支援体制を維持していく。あわせて、地域住民との協調関係を重視し、地域とともに発展する大会運営を目指す。

評価委員の意見	高い集客力、参加者満足度、安全管理体制の改善努力により、明日香村の魅力を発信するできており、「全国ランニング大会100撰」への連続選出は、その成果である。様々な課題は、今後の事業の持続的発展のために重要であるが、着実に克服し、さらに地域に根差した魅力的なイベントとして発展していくことを期待します。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	社会体育施設	費目	社会教育費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	利用者数	単位	目標					
		人	実績	(参考)10,315	20,894	37,604		

事業の目的	明日香村の社会体育施設は、村民の日常生活におけるレクリエーション活動、健康増進、および生涯学習の拠点を提供することを目的としている。
事業の内容	①社会体育施設および学校開放施設の管理と貸出 社会体育施設：近隣公園（多目的グラウンド・テニスコート等）、屋内ゲートボール場 学校開放施設：聖徳中学校運動場・体育館、明日香小学校運動場・体育館 ②施設利用の充実 子どもから高齢者までがスポーツに親しみ、楽しく健康づくりができる環境を整備する。同時に、災害時には避難地としても機能する公共の場として、村民の安心・安全に寄与する役割も担っている。
成果	多目的グラウンド利用者数 15,818人、テニスコート利用者数 4,011人 屋内ゲートボール場 3,279人、 中学校運動場 2,065人、中学校屋内運動場 1,610人 小学校運動場 3,915人、小学校屋内運動場 6,906人 合計 37,604人 施設利用者は増加傾向にあり、特に屋内ゲートボール場とテニスコートの人気が高く、利用枠数の制限を実施している状況である。 近隣公園については、上記の予約以外に散歩や遊具の利用等で日常的に活用されている。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		利用者の利便性と安全確保のため、多目的グラウンドの設備や子どもの遊び場の遊具について、定期的な点検と適切な更新が継続的に必要である。あわせて、樹木の剪定を含む定期的な管理体制の強化も求められている。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	施設利用の実態を把握した上で、計画的な修繕と定期的な保守管理を推進する。特に、利用者の安全確保に向けて、遊具や樹木などの定期的な点検と更新を組織的に進める。 あわせて、施設の長期的な維持管理体制を構築し、村民の安心・安全で快適な施設利用環境の維持に努める。		

評価委員の意見	施設の老朽化対策としての定期的な点検と設備更新、そして維持管理作業の効率化と品質維持に重点を置くことで、長期にわたって村民に安心・安全で快適なスポーツ・レクリエーションの場を提供し続けることを期待します。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	中央公民館講座・活動	費目	公民館費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	参加者数	単位	目標					
		人	実績	2,430	2,726	2,738		

事業の目的	住民の教養・文化・健康の向上を目的に、幅広い種類の講座を開講し、住民が生涯にわたり、いつでも気軽に活動できる学習活動の場を提供する。
事業の内容	【史学文学講座】関西大学から講師を招き、飛鳥の歴史講座を開催する。（月1回開催） 【公民館講座（単発）】子どもから高齢者まで幅広い年齢層を対象に、様々な講座を開催する。（年6回開催）スマホ写真テクニックセミナー、親子木工講座（マルチラック）、ダブルダッチ、昭和歌謡で踊ろう、羊毛フェルト（ハリネズミ）など 【公民館講座（年間）】講師を招き、年間を通じて講座を開講する。（陶芸講座、英会話初級・中級、手話講座）
成果	【史学文学講座】年間延べ 2,018名 【公民館講座（単発）】年6回延べ 120名/年間 【公民館講座（年間）】年間延べ 600名 各種講座を通じて、村民が生きがいを発見したり、新しい知識や技術を習得したりする機会を創出している。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		講座の開催も施設の利用も年間を通じて安定している点は良いことだが、一方で利用者が固定化している傾向にあるとも言える。現状の施設利用と競合することなく、新しい講座の開拓や新規利用者への働きかけも必要。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	定期講座は引き続き継続しつつ、単発講座などはニーズを踏まえて取り入れている。また、施設については適宜点検・修繕を行いながら維持管理を進めている。		

評価委員の意見	地域資源を活かした独自の歴史講座から、多様な単発・年間講座まで、幅広い学習機会を提供し、安定した運営と利用実績がある。引き続き、村民の学習意欲に応え、文化的な生活を支援する上での貢献を期待します。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	教育推進課
	図書室管理	費目	公民館費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	利用者数	単位	目標		15,500	20,000	20,000	20,000
		人	実績	2,611	20,200	24,687		

事業の目的	いつでも必要な情報を得ることができる「知の拠点」としての役割を充実させるとともに、村民の「生涯学習活動」を支援し、人や情報の交流を生み出す「交流拠点」として、多くの村民に親しまれる図書室を目指す。
事業の内容	一般書、児童書を中心に書籍及び電子書籍を貸し出す。月に1度のお話し会イベントや、健康こども福祉課との事業連携により、子どもや保護者が読書に触れる機会を創出する。多世代交流を意図したイベントや季節に合わせた特集を定期的に開催する。
成果	R6年5月に図書室を健康福祉センター内へ移転したことで、これまでに図書室利用がなかった村民への利用促進が図れ、維持できている。 ボランティア団体による「楽しいお話し会」参加者は毎回5組程度（月1回開催） 図書室利用者による本の紹介展示「教えて!推し本」応募数96件（年1回開催、昨年78件） ・年間利用者 24,687人(延人数) ・貸出件数 15,397件

基本 評 価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		村民に広く図書室の存在を知ってもらい、利用を促進するためには、村のホームページや広報紙を通じた積極的なアピール、本の読み聞かせや企画展示の充実が継続的に求められる。		
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	移転後に来室者数は大幅に増加し、令和7年度も維持した。多世代交流を促すイベントの実施は、地域コミュニティに根差した事業展開ができた。		

評価委員の意見	積極的な広報活動と、企画展示・読み聞かせといったイベントを継続的に実施することで、図書室がより多くの村民にとって不可欠な存在となり、明日香村の生涯学習と地域交流に寄与することを期待します。
---------	--

文化財課

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	文化財課
	文化芸術事業 芸術文化の振興		費目	生涯学習総務費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	「明日香の匠」展入場者数	単位	目標	2,400	2,700	3,000	3,000	3,000
		人	実績	2,536	2,845	2,255		

事業の目的	村民が広く芸術文化に親しむ機会を創出する。 文化活動を通じて世代を超えた住民交流を推進する。 伝承芸能の継承と発展。 芸術面からの飛鳥の魅力を発信する。
事業の内容	村民が芸術文化に触れる機会の創出。村を拠点に活動する作家の作品発表の場の提供。文化芸術を通じた村民交流。 ・「明日香の匠」展 明日香村を拠点に活動する芸術家による美術展（公募） ・飛鳥アートヴィレッジ 村外在住の若手作家による現代アート展（公募） ・文化祭（芸能大会・美術展） 村在住・勤務者、伝承芸能保存会員、公民館クラブ会員、文化協会会員、幼少中学生による発表会 ・伝承芸能保存会 『万葉集』『古事記』『日本書紀』に起源を持つ伝承芸能の継承発展（八雲琴・万葉朗唱・南無天踊り・飛鳥蹴鞠） ・万葉集研究の第一人者である犬養孝氏を顕彰する「南都明日香ふれあいセンター犬養万葉記念館」の運営 ・万葉文化事業 『万葉集』に親しむ講座・講演会・ハイキングなどイベント事業を開催
成果	・「明日香の匠」展 芸術文化に触れる機会の創出、村内外の芸術家による交流促進、若手作家の掘り起こし、開催会場周辺施設の観光閑散期対策につながっている。 ・飛鳥アートヴィレッジ R7年度も前年度に引き続きアートマネジメント会社に企画検討を委託したことで、無理がない現実的なイベントの企画につながった。 ・文化祭 文化活動を通じて世代を超えた住民交流ができた。物づくりや出演に向けた練習が高齢者の喜びにつながっている。 ・伝承芸能保存会 コロナ禍に減少したイベントが復活し、村内外イベントに積極的に参加している。これらが事業周知及び活動費確保に繋がっている。 ・犬養万葉記念館の運営 新指定管理者が新たな万葉事業の検討及び積極的な地域住民交流に取り組んでいる。

基本評価	評価基準	評価内容	評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A ・・・村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B ・・・法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C ・・・村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D ・・・村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A ・・・十分な成果を挙げている	B
		B ・・・一定の成果を挙げている	
		C ・・・一部に対して成果を挙げている	
		D ・・・成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A ・・・実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B ・・・実施手法は適切である	
		C ・・・実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D ・・・見直しが必要である	

課題	■「明日香の匠」展の活性化 来場者を一時的な「浮動客」から継続的な「固定客」へと転換させるための施策が必要である。また、展示会場である奈良県立万葉文化館との連携を強化し、効果的な事業周知方法を確立することが課題。 ■飛鳥アートヴィレッジの再構築 イベントのコンセプトやスケジュールを明日香村の魅力にふさわしいものに改善し、より多くの人々に楽しんでもらえる芸術イベントへと発展させる必要がある。事業を継続するための財源を確保する仕組みの構築方法。 ■文化祭の世代交代 実行委員、参加者、来場者の高齢化が進んでいる。若者が積極的に参加したくなるような企画や運営方法を取り入れ、世代交代を図ることが喫緊の課題。 ■伝承芸能保存会の持続可能性 後継者の確保と育成が課題であり、このままでは伝承芸能が途絶える恐れがある。また、事業を継続するための財源を確保する仕組みを構築する必要がある。 ■犬養万葉記念館の運営支援 安価な指定管理料で運営を担う民間企業に対し、適切なフォローアップを行い、安定した運営を支援していく必要がある。 ■万葉文化事業の新規参加者獲得 新受託業者が行政の意向に添いながらも自由な発想で事業を進めることができるように、金銭、知識及び人脈面からの支援が必要。
----	---

総合評価	評価	今後の方向性
	B	工夫すべき点も残っているが、現在の実施手法で問題ないため、今後も同内容で継続していく

評価委員の意見	飛鳥の魅力を発信していく上で、村民が芸術文化に触れる機会の創出として、現在の実施手法で問題ないため、今後も同様の内容で継続してください。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	文化財課
	発掘調査事業 文化財の調査研究		費目	発掘調査費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	発掘調査面積	単位	目標	200	200	200	200	200
		m ²	実績	358	275.5	380		

事業の目的	埋蔵文化財は、村の歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない歴史的遺産であり、開発事業との円滑な調整を図りつつ、住民の理解と協力を得ながら、適切に調査研究を実施し、保存活用する。村内で行われた遺跡調査や飛鳥地域の最新の研究成果を公表し、文化財の価値と魅力を多くの方に知ってもらう。
事業の内容	【発掘調査】 ・個人住宅等（藤原京跡）10m²・範囲確認（甘樫丘遺跡群）380m² ・『明日香村遺跡調査概報令和6年度』の刊行(300部) 【文化財調査研究紀要発行事業】 ・『文化財調査研究紀要』第25号の発行
成果	発掘調査は、開発に伴う事前の発掘調査と甘樫丘遺跡群の範囲確認調査を実施し、文化財保護と開発計画の調整を図った。また、その成果について概要報告書を発行し公表に努めた。 村内に所在する遺跡や文化財についての論考を掲載した研究紀要を刊行し、調査研究で得られた成果をより深化させ、飛鳥地域の新しい歴史的事実を示すことができた。職員の資質向上、新しい飛鳥の魅力創出、飛鳥文化解明の一助にもなっている。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	B
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	A
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題	甘樫丘遺跡群の発掘調査が進められ、着実に考古学成果が得られているものの、明日香村の新たな魅力の発信として、また、文化財の保存と活用に向けてのさらなる検討が求められる。 また、考古資料以外の文化財、例えば歴史的建造物や村内の古民家等に所蔵されている古文書・民具等の歴史文化資源については、専門的知識を有する人材が確保されておらず、十分な調査がおこなえていない。			
総合評価	評価	今後の方向性		
	B	今後も構成資産を磨き上げ、価値をさらに向上させるよう体制を充実させ調査研究を継続する。		

評価委員の意見	住宅建築等に伴う事前発掘調査は、住民に十分理解と協力を得ながら適切に調査を実施し、範囲確認調査については、引き続きその価値と魅力を証明して公表してもらいたい。
---------	---

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続	所管課	文化財課
	保存整備活用事業 文化財の保存と活用	費目	文化財保護費

事業の成果や効果を示す指標名(説明)				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	来場者数(石舞台、高松塚壁画館、キトラ古墳四神の館、万葉文化館、飛鳥資料館)	単位	目標	602,000	450,000	460,000	470,000	480,000
		人	実績	440,000	466,000	504,000		

事業の目的	「明日香村まると博物館」や「世界遺産登録」に向けての取り組みとして、構成資産をはじめとする文化財を適切に保存し、その価値をさらに向上させるよう活用していく。合わせて、飛鳥宮跡や中尾山古墳、高松塚古墳壁画保存公開施設について体感できる整備を行い、世界遺産登録へと繋げていく。
事業の内容	【飛鳥宮跡保存活用事業】 ・史跡追加指定・公有化の促進と、奈良県設置の活用検討委員会での整備検討。 ・史跡指定：44,900㎡、公有化：36,537㎡（令和7年度末現在） 【史跡整備活用事業】 ・酒船石遺跡竹林環境整備 竹チップ舗装 A=253㎡ 竹穂垣L=220m 竹林整備 4,200㎡ 【世界遺産登録推進事業】 ・「飛鳥・藤原の宮都」ユネスコ諮問機関による審査対応（世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会） 【古墳壁画の保存活用】 ・高松塚古墳壁画修理（～令和元年度末完了）、(仮称)保存管理公開活用施設の検討 ・キトラ古墳壁画公開（観覧者数：26,624人・第35～38回） ・高松塚修理施設公開（観覧者数：5,034人・第49～52回） ・四神の館（来館者数：126,394人）
成果	飛鳥宮跡の史跡地指定は全体100%完了し、公有化は78%まで進んでいる。また、奈良県で「飛鳥宮跡活用検討委員会」を設置し、整備基本設計を行った。 中尾山古墳は発掘調査成果を踏まえ、今後の整備について検討を行った。 酒船石遺跡では竹林及び園路整備により、史跡地及び周辺の良好な景観形成を促し、魅力向上に資することができた。 世界遺産は、令和7年1月に正式版推薦書が日本国政府からユネスコに提出され、諮問機関による審査が継続している。現地調査は9月に実施された。 古墳壁画の公開活用が継続され、高松塚古墳壁画については文化庁において（仮称）保存管理公開活用施設の検討が進められている。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	B
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
B		・ 実施手法は適切である		
C		・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である		
D		・ 見直しが必要である		
課題	世界遺産では、構成資産の適切な保存管理を継続するとともに、今後、登録後を見据えたインターネットーション及びプレゼンテーションについての検討が必要である。 高松塚古墳壁画の保存公開施設の事業推進、飛鳥宮跡・飛鳥京跡苑池の公開活用に向けた整備検討について、国・県と連携して実施する必要がある。 中尾山古墳については、継続してモニタリングを行いながら、万全の保護措置を行い、その価値をわかりやすく伝えられるよう、保存と公開の在り方について検討が必要である。			
総合評価		今後の方向性		
	B	確実な保存管理を行うとともに、効果的な活用を継続していく。		

評価委員の意見	埋蔵文化財は貴重な共有財産であり、調査研究実施後大切に保存するとともに、できるだけ公開をするなど活用に努める必要がある。
---------	--

事務事業点検評価

(新規・継続・完了) 事務事業名	継続		所管課	文化財課
	飛鳥の魅力発信事業 明日香村歴史資産の魅力発信		費目	飛鳥京保存対策費 歴史的風土創造的活用対策費

事業の成果や効果を示す指標名（説明）				令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度
①	日本遺産「飛鳥」に関する講座・イベント数	単位	目標	25	26	27	28	29
		回	実績	25	28	29		

事業の目的	村内で行われた発掘調査の成果や飛鳥地域の最新の研究成果を公表し、文化財の価値と魅力を多くの方に知ってもらう。さらに日本遺産「飛鳥」の活用や「飛鳥・藤原」の世界遺産登録を目指し、国内外に広く発信する。
事業の内容	【全国講演会】 ・第29回明日香村まるごと博物館フォーラム JR九州ホール(福岡) 2/23 300名 ・明日香村文化財連続講座 東京まほろば館(東京) 2回 12/20、1/25 計100名 ・かんだい明日香まほろば講座(東京) 3回 7/22 383名、1/24 487名 ・明日香村発掘調査報告会 明日香村中央公民館(明日香村) 3/20 200名 【世界遺産登録推進事業】 ・登録推進イベント もうすぐ世界遺産の「飛鳥・藤原」を味わい尽くす2日間 あべのハルカス17階soranosu(大阪) 1/25、イオンモール橿原(橿原市) 1/31 計450名 (世界遺産「飛鳥・藤原」登録推進協議会) 【古代飛鳥再現事業】 ・伎楽プロジェクトの実施 行道 9/27実施 【アサガオプロジェクト】 ・牽牛子塚古墳の公開(一般入場者数 44,598人) ・アサガオの植栽、牽牛子塚古墳ライトアップ 【日本遺産魅力発信事業】 ・日本遺産等のイベントの参加(参加イベント28回) ・ノベルティグッズの配布による普及啓発
成果	講演会やイベントの開催等により、飛鳥地域の発掘調査の成果や価値、魅力をいち早く、わかりやすく伝えることができる機会として、好評を得ている。世界遺産登録への機運醸成にもつなげることができた。 伎楽プロジェクトについては、伎楽の仮面や衣装を纏った行道を行うため、子ども達が身に着けるお面やストールを作成するワークショップを開催し、子供向けの伎楽講座を行うなど新たな文化の創造に取り組むことができた。 令和4年3月から共用を開始している牽牛子塚古墳は、越塚御門古墳でのプロジェクトマップ、被葬者や飛鳥時代を体験できる映像コンテンツを鑑賞できる特別公開を行ない、多くの来訪者が訪れるスポットとなっている。維持管理や周辺を含めた環境整備を行いながら飛鳥周辺の活性化に繋げる拠点としての機能を高め、アサガオの植栽やライトアップにより、多くの来訪者に魅力を発信することができている。 日本遺産「飛鳥」の各種イベントでの啓発、講座・講演会等の参加や、ストーリー映像の上映、読本の閲覧により、認知度を高めながら、語り部やプロガイド等の人材育成、啓発を重点的にを行い、日本遺産による旅行商品の造成や商品づくりにも繋げることができた。

基本評価	評価基準	評価内容		評価
	継続性 (事業を継続すべきか)	A	・ 村民等のニーズが高く継続すべき事業である	A
		B	・ 法令等の定め、または一定のニーズがあり継続が求められる	
		C	・ 村民等のニーズはあるが、時代変化に適応しなくなっている部分がある	
		D	・ 村民等のニーズや社会変化に全く適応しておらず継続が不要な事業である	
	効果性 (成果を挙げているか)	A	・ 十分な成果を挙げている	A
		B	・ 一定の成果を挙げている	
		C	・ 一部に対して成果を挙げている	
		D	・ 成果が見られない	
	効率性 (実施方法は適切か)	A	・ 実施手法は適切であり、見直しの必要はない	B
		B	・ 実施手法は適切である	
		C	・ 実施手法は適切であるが、一部見直しが必要である	
		D	・ 見直しが必要である	
課題		文化財の価値や魅力をより多くの方に知ってもらうためには近隣市町との広域連携のみならず地方との結びつきや、わかりやすい展示方法にするなどの工夫が必要である。さらに講演会等の開催にあたっては、同地域・同種事業との調整も必要である。日本遺産「飛鳥」の魅力発信のため、文化庁や他の認定団体、観光部門との強力な連携が必要である。		
総合評価		今後の方向性		
	A	『飛鳥・藤原』の宮都の世界文化遺産登録に向け、歴史文化資源を通じて、飛鳥の魅力を全国に発信するとともに、歴史的風土の保存と活用への理解・協力を求め、後世へ適切に継承する。		

評価委員の意見	村の文化財の価値や魅力をさらに国内外の多くの方に発信し、『飛鳥・藤原』の宮都の世界文化遺産登録に向けて、各種事業を積極的に進めてください。
---------	---

5 ま と め

(1) 学校教育について

学校教育では、「自立して社会を生き抜く力」を持った子どもたちを育てることを教育目標としています。この目標達成のため、幼小中の全教職員が校種を超えて共通理解を図り、連携・協力することで、地域住民や保護者と共に、「15歳の自立をめざす幼小中一貫教育」の実現に向けた取り組みを進めています。

また、文部科学省が示す新しい学習指導要領では、予測困難な時代を生き抜く子どもたちに必要な資質・能力の育成が重視されています。これを受け、教育委員会としてはこれまでの教職員の推進体制を整え、新たなテーマとして「これからの教育の基盤となる学力の育成～『問題解決能力』の向上を目指して～」を設定しました。このテーマのもと実践を継続し、言語力の向上、英語教育、郷土学習を3本柱として、様々な教育活動に取り組んでいます。

さらに、授業におけるICT活用を円滑に進める環境づくりとして、教職員のICT活用を支援するICT支援員を配置し、サポート体制の充実を図っています。

地域との連携においては、明日香郷土学習副読本（前期用・中期用・後期用）の活用と地域による学習支援を明記した郷土学習プログラムVersion3に基づき、一層系統性・継続性を重視した郷土学習を実施しています。地域連携コーディネーターと連携することで、学校・地域コミュニティ活動の課題を明確にすることもできました。

そして、子育て支援策として、保育料や給食費の負担軽減、入学祝金の支給といった経済的支援、放課後児童クラブの継続など、子どもや子育て中の保護者にとって安心・安全な環境づくりに取り組み、子どもを産み育てやすい村づくりを推進しています。

教育施設については、園児・児童・生徒の安心安全な教育環境の充実を図ることを目的に、施設の状況に応じて改修工事や設備の更新を行いました。今後の児童生徒数の推計や将来にわたる財政負担を考慮しつつ、安心安全な学習環境を確保するため、引き続き計画的な施設改修に努めます。

（２）生涯教育について

明日香村では、第５次明日香村総合計画が掲げる『いつまでも住み続けたい』『そう思える村』そして「五感で体感できる『明日香まるごと博物館』」という将来像の実現に向け、村民一人ひとりがそれぞれのライフステージにおいて、あらゆる機会と場所で互いに学び、支え合い、高め合えるよう、生涯学習を推進しています。具体的には、芸術・文化の振興、スポーツを通じた魅力発信、地域連携と次世代育成など多岐にわたる分野で事業を展開し、その成果を地域社会へ還元することを目指しています。

生涯学習とスポーツの分野では、スポーツ協会を中心に、多くの村民が参加・交流できるイベントを継続的に開催しています。また、NPO 法人楽スポあすかは、多様なスポーツ教室やクラブ活動を提供することで、村民の健康維持と体力向上に大きく貢献しています。加えて、小中学校の体育授業や部活動の支援も行っており、地域全体のスポーツ振興に寄与しています。

社会体育施設は、村民のレクリエーションや健康増進の拠点として機能しており、利用者数は増加傾向にあります。さらに、飛鳥ハーフマラソンは、約 3,000 名の参加者を集め、３年連続で「大会 100 撰」に選出されるなど、明日香村の魅力を国内外に発信する上で大きな役割を果たしています。

中央公民館では、住民が主体となるクラブ活動の支援や、史学文学講座や、公民館講座の開講を通じ、村民へ安定した学習機会を提供しています。また、令和 6 年 5 月に健康福祉センター内へ移転した図書室は、来室者数が大幅に増加しました。令和 7 年度の利用者数は 24,000 名を超え、多世代が交流する地域コミュニティの拠点として役割をさらに強めています。

文化分野では、文化祭（芸能大会・美術展）を定期的に行い、今年は第 12 回となる「明日香の匠展」も盛況のうちに終えることができました。

これらの生涯学習やスポーツ、文化に関する取り組みに対しては、学識経験者からも、今後の新しい事業展開へ大きな期待が寄せられています。

（３）文化財について

本村の文化財は、「日本国」誕生の時代の政治・文化を解明する上で非常に重要なものです。

村内には、国指定の史跡が２１箇所あり、うち３箇所が特別史跡に指定されています。しかし、これらの遺跡は村全体の一部であり、実際には村内全域に貴重な遺跡が眠っているといっても過言ではありません。また、ここから発掘された出土品も、遺跡の価値を高めています。村内では高松塚古墳壁画やキトラ古墳壁画、岡寺の木芯乾漆義淵僧正坐像とともに国宝に指定されています。

このことから、村の貴重な文化財を次の世代に引き継ぐためには、発掘調査により遺跡の範囲や価値を明らかにする必要がある、奈良文化財研究所や橿原考古学研究所などの関係機関と連携・調整を図り、計画的かつ重点的に学術調査に取り組みます。

令和７年度には、重要遺跡の実態解明に向け、甘樫丘遺跡群の発掘調査を引き続き実施しました。また、発掘調査などにより明らかとなった遺跡については、今後適切な保存対策を講じるとともに、『本物を見られる』『本物を感じられる』ことに重点を置き、遺跡整備や各種コンテンツの作成、講演会等の開催など、本物の文化財に接する機会などの充実を図り、来訪者が古代飛鳥を体感できる取り組みを推進します。飛鳥宮跡や飛鳥京跡苑池については奈良県とともに史跡指定や公有化等を進め、飛鳥時代を体感できる拠点として歴史展示を推進しています。整備事業が令和４年２月に完了した牽牛子塚古墳については、西飛鳥周辺の活性化に繋げる拠点としての機能を高めるとともに、地域の誇りに繋げる取り組みとして牽牛子の名前の由来となったアサガオ栽培を通じたアサガオプロジェクトも現在、進行中で、共用開始後の来訪者数が１６万人以上に上っています。中尾山古墳では史跡の確実な保存と活用に向けた整備事業に向けた検討を行いました。さらに、国が設置予定の高松塚古墳壁画の保存管理公開活用施設については、本物の壁画公開のみならず、明日香まるごと博物館づくりの一環として、飛鳥地域のゲートウェイとなる施設となるよう、引き続き働きかけを行ってまいります。

また、「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録については、令和７年１月に日本国政府から推薦書がユネスコに提出され、諮問機関による審査が行われ、９月には現地調査が実施されました。今後、令和８年７月の世界遺産委員会で登録の可否が審議されます。構成資産候補については史跡の公有化などの保護措置を継続するとともに、登録後を見据えた受入体制の強化や世界遺産の価値を効果的に伝達するためのインタープリテーション及びプレゼンテーションの実施などに取り組んでまいります。

6 学識経験者の知見の活用

教育委員会が行った点検・評価についてその客観性を確保するため、2名の学識経験を外部評価委員（明日香村教育事務評価委員）として委嘱し、点検・評価の内容についてご意見をいただきました。

【評価委員の意見】

学校教育においては、幼稚園から小学校、そして中学校へとつながる幼小中一貫教育の取組が着実に前進していることがわかりました。また、学校だけでなく、保護者・地域とも連携・協働し、明日香の子どもを村ぐるみで育てる環境がいよいよ整ってきたと感じます。

一方、教育の充実や児童生徒の学力の向上、いじめや不登校の問題解消に加え、教員の確保や働き方改革など、課題は山積しています。引き続き関係各方面と連携・協働しながら取組を進めていただくことを願います。

そして、生涯学習については、多世代・多分野にわたる「学び」の機会を提供し、地域全体の活性化に貢献していくことが期待されます。また、スポーツ振興は、住民の健康増進と地域活性化、そして村の魅力発信に重点を置いて進められており、飛鳥ハーフマラソンについては、明日香の魅力を広く発信できる好機とし、村の発展に寄与できるイベントとして進められています。

生涯学習やスポーツについては、これまでの経験で培った方法等を取り入れ、今後、新しい事業を展開されることを期待します。

文化財に関しては、令和7年1月にユネスコへ正式推薦して以降、諮問機関の審査が行われてきましたが、令和8年7月に「飛鳥・藤原の宮都」の世界遺産登録が達成されました。整備が完了した牽牛子塚古墳をはじめとして、史跡整備や調査が計画的に行われ、適切な保存と活用について様々な議論や取り組みを進められています。世界遺産登録後には、確実な保存が求められるとともに、周辺の自然環境や文化資源とも連動した活用が必要となってくるので、より一層の取り組み強化をお願いします。

令和 8年 7月28日

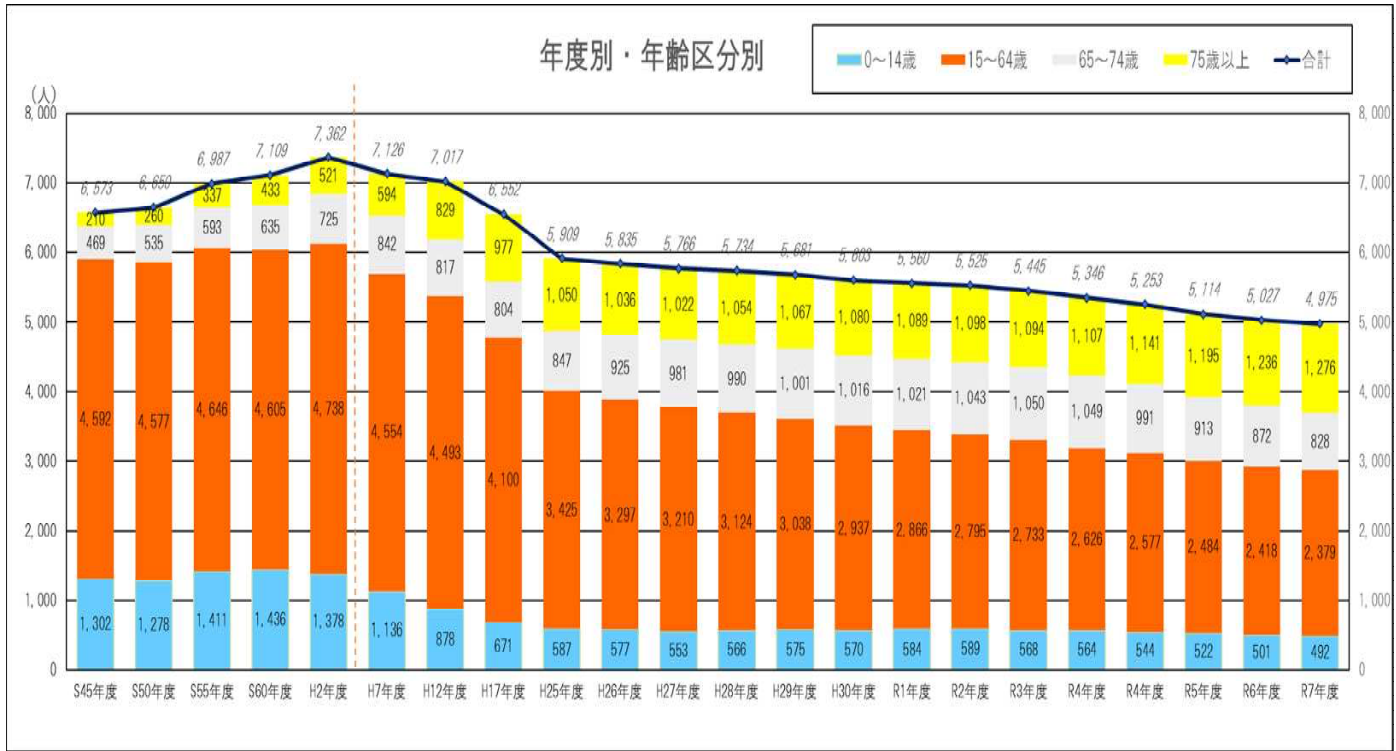
明日香村教育事務評価委員 木村 規雄

明日香村教育事務評価委員 川口 知里

參考資料

■明日香村の人口の推移

(単位：人、各年度4月1日現在、出典：住民基本台帳)



村の総人口は平成2年度（7,362人）をピークに減少を続けているが、児童生徒数は平成27年度以降一定の人数を維持している。

(単位：人、各年度3月31日末現在、出典：住民基本台帳)

年度		H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
増加数（A+B）		-53	-80	-44	-35	-80	-105	-101	-128	-84	-58
自然動態	出生	30	23	30	27	20	33	17	23	13	15
	死亡	83	88	94	73	78	90	110	102	88	81
	自然増（A）	-53	-65	-64	-46	-58	-57	-93	-79	-75	-66
社会動態	転入	147	148	152	145	139	110	106	65	117	116
	転出	146	163	132	134	161	158	114	114	126	108
	社会増（B）	1	-15	20	11	-22	-48	-8	-49	-9	8

■人口と園児・児童・生徒数の推移

(単位：人、各年度4月1日現在、出展：住民基本台帳)

	保育園			幼稚園・保育園			小学校						中学校			
	0	1	2	3	4	5	6 (1年)	7 (2年)	8 (3年)	9 (4年)	10 (5年)	11 (6年)	12 (1年)	13 (2年)	14 (3年)	計
H28	32 <2>	23 <11>	36 <13>	32 (19) <12>	42 (26) <16>	31 (23) <9>	37 (37)	38 (39)	48 (48)	35 (35)	50 (49)	42 (42)	38 (36)	42 (41)	40 (39)	566 (250) (116) (68) (63)
H29	29 <2>	36 <12>	29 <15>	38 (21) <14>	35 (21) <12>	42 (26) <16>	38 (38)	36 (37)	39 (39)	48 (48)	35 (35)	50 (49)	40 (42)	38 (36)	42 (41)	575 (246) (119) (68) (71)
H30	27 <3>	31 <11>	36 <14>	31 (16) <15>	38 (21) <15>	38 (23) <13>	45 (46)	38 (37)	36 (36)	39 (39)	49 (49)	35 (35)	48 (37)	41 (38)	38 (36)	570 (242) (111) (60) (71)
R1	30 <1>	31 <11>	36 <15>	41 (28) <14>	35 (16) <18>	38 (20) <15>	41 (40)	49 (47)	36 (38)	36 (36)	39 (39)	48 (48)	35 (32)	48 (38)	41 (38)	584 (248) (108) (64) (74)
R2	26 <2>	32 <10>	33 <13>	39 (22) <15>	44 (26) <18>	35 (18) <17>	39 (39)	43 (42)	49 (50)	39 (39)	39 (39)	39 (39)	48 (43)	36 (32)	48 (38)	589 (248) (113) (66) (75)
R3	23 <1>	29 <9>	34 <19>	33 (21) <11>	37 (23) <12>	43 (27) <17>	40 (40)	39 (39)	43 (42)	50 (50)	39 (39)	38 (38)	37 (31)	48 (43)	35 (32)	568 (248) (106) (71) (69)
R4	31 <2>	25 <14>	31 <14>	33 (12) <21>	33 (21) <12>	35 (24) <11>	44 (43)	39 (39)	38 (38)	43 (42)	50 (48)	39 (39)	38 (32)	37 (31)	48 (43)	564 (249) (106) (57) (74)
R5	19 <2>	36 <16>	24 <12>	34 (15) <16>	36 (18) <18>	33 (22) <12>	37 (37)	43 (43)	38 (38)	39 (39)	44 (43)	48 (48)	39 (36)	37 (33)	37 (31)	544 (248) (100) (55) (76)
R6	23 <1>	20 <6>	33 <19>	25 (12) <13>	31 (19) <13>	36 (17) <18>	33 (34)	37 (37)	43 (43)	37 (37)	39 (39)	44 (43)	45 (43)	39 (36)	37 (33)	522 (233) (112) (48) (70)
R7	13 <3>	22 <11>	21 <9>	31 (10) <22>	24 (12) <12>	32 (17) <16>	38 (37)	33 (34)	37 (37)	43 (43)	37 (37)	40 (40)	44 (35)	46 (43)	40 (37)	501 (228) (115) (39) (73)

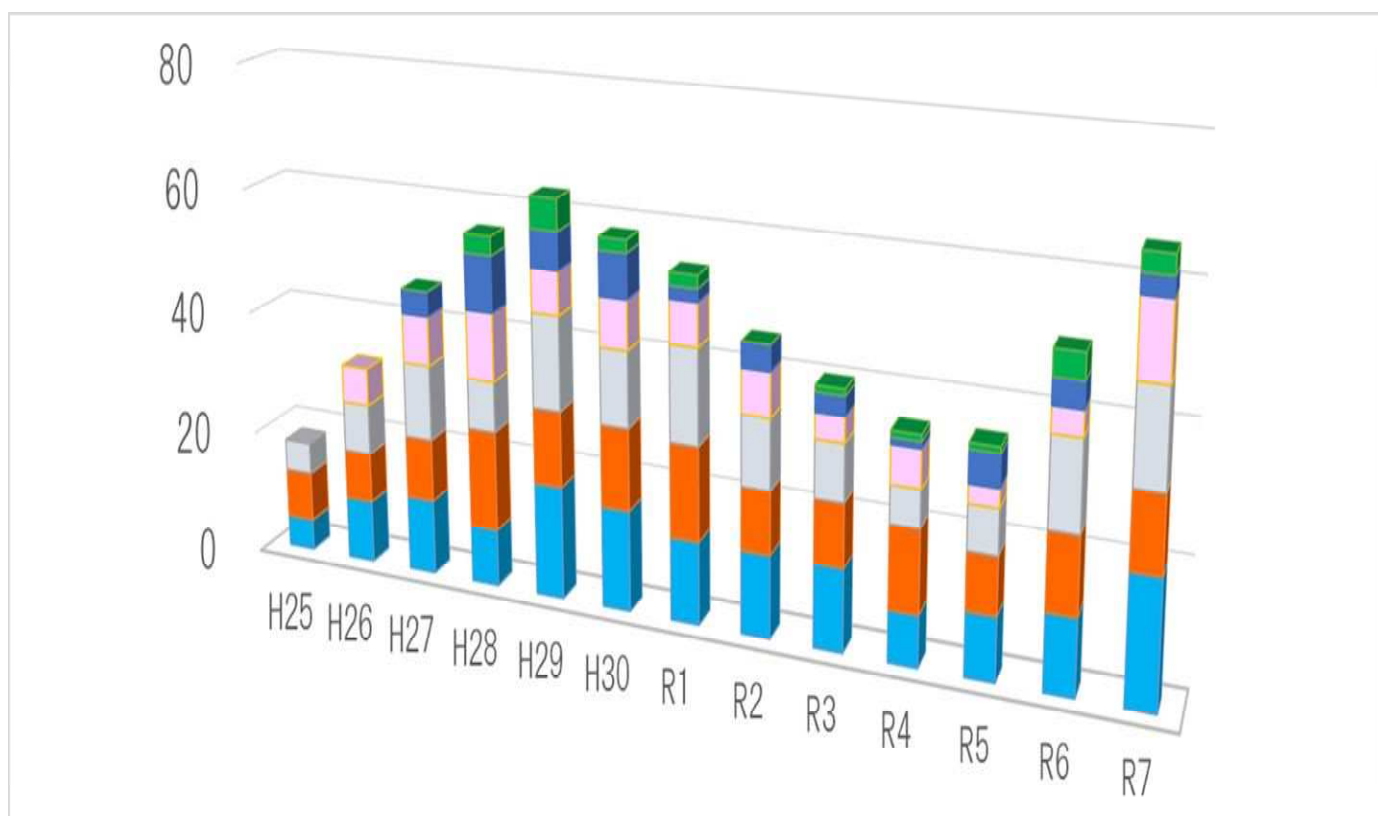
※黒字：住基人口、赤字：保育園児、青字：幼稚園児、緑字：小学生、橙色：中学生

■放課後児童クラブ利用者数の推移

(単位：人、各年度4月1日現在、出典：明日香村教育推進課)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
6年	0	0	0	3	5	2	2	0	1	1	1	4	3
						(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(2)
5年	0	0	4	9	6	7	2	4	3	1	5	4	4
						(2)	(1)	(0)	(0)	(0)	(0)	(2)	(3)
4年	0	6	8	11	7	8	7	7	4	6	3	4	12
		(2)		(1)	(1)	(0)	(1)	(0)	(0)	(0)	(1)	(1)	(5)
3年	5	8	12	8	15	12	15	11	9	6	7	14	14
			(2)	(1)	(3)	(3)	(1)	(0)		(2)	(1)	(4)	(3)
2年	8	8	10	16	12	13	15	10	10	13	9	12	13
		(1)	(1)	(3)	(2)	(3)	(1)	(0)	(1)	(0)	(1)	(3)	(2)
1年	5	10	12	9	18	16	13	13	13	8	10	12	19
			(1)	(1)	(6)	(2)	(1)	(0)	(1)	(8)	(0)	(1)	(1)
計	18	32	46	56	63	58	54	45	40	35	35	50	65
		(3)	(4)	(6)	(12)	(11)	(6)	(0)	(3)	(10)	(3)	(11)	(16)

() は、夏期利用者 ※R2年度は、小学校の夏期休暇短縮に伴い休所。



■児童生徒学力等調査

小学校				H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
ベネッセ	2年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	-	72.3	78.9	86.1	79.4
			全国	-	-	-	-	-	83.1	84.4	82.8	82.1	
		算数	明日香村	-	-	-	-	-	81.5	81.5	83.6	83.0	
			全国	-	-	-	-	-	89.2	85.7	84.3	83.6	
	3年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	83.8	77.8	74.2	83.1	
			全国	-	-	-	-	-	80.5	84.0	81.5	82.6	
		算数	明日香村	-	-	-	-	-	84.8	78.2	76.6	86.3	
			全国	-	-	-	-	-	84.5	81.4	83.8	80.8	
	4年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	71.9	69.8	57.0	73.3	
			全国	-	-	-	-	-	68.2	72.3	66.5	74.0	
		算数	明日香村	-	-	-	-	-	78.1	73.3	69.8	70.3	
			全国	-	-	-	-	-	71.8	67.2	71.3	71.4	
	5年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	56.9	71.0	65.0	58.4	
			全国	-	-	-	-	-	63.3	70.6	62.1	65.5	
		算数	明日香村	-	-	-	-	-	55.2	62.8	62.4	71.3	
			全国	-	-	-	-	-	63.9	64.1	61.8	70.7	

全国学力状況調査	6年	国語	明日香村	73.5	78.0	77.0	63.0	中止	60.7	58.0	63.0	70.1	70.0	
			奈良県	71.7	74.0	69.0	60.0		61.4	63.0	65.0	67.0	67.0	
			全国	72.9	74.8	70.7	63.8		64.7	65.6	67.2	67.7	66.8	
		算数	明日香村	81.7	81.0	70.0	66.0		68.1	58.0	57.0	63.2	63.0	
			奈良県	77.1	78.0	63.0	66.0		69.3	62.0	62.0	63.0	58.0	
			全国	77.6	78.6	63.5	66.6		70.2	63.2	62.5	63.4	58.0	
		理科	明日香村	-	-	56.0	-		-	57.0	-	-	-	66.0
			奈良県	-	-	59.0	-		-	61.0	-	-	-	57.0
			全国	-	-	60.3	-		-	63.3	-	-	-	57.1
		国語B	明日香村	66.3	65.0	53.0	※ 赤字 奈良県・全国を上回る。							
			奈良県	56.9	56.0	53.0								
			全国	57.8	57.5	54.7								
		算数B	明日香村	48.7	47.0	50.0								
			奈良県	46.4	45.0	50.0								
			全国	47.2	45.9	51.5								

※ 赤字 奈良県・全国を上回る。

中学校				H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
ベネッセ	1 年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	-	66.3	68.9	60.0	63.7		
			全国	-	-	-	-	-	70.5	72.2	62.0	64.6			
		数学	明日香村	-	-	-	-	-	63.7	68.9	65.8	60.9			
			全国	-	-	-	-	-	64.0	66.4	65.3	62.8			
	2 年	国語	明日香村	-	-	-	-	-	73.5	74.1	67.1	73.4			
			全国	-	-	-	-	-	69.3	73.7	69.2	73.4			
		数学	明日香村	-	-	-	-	-	62.5	47.4	46.4	51.8			
			全国	-	-	-	-	-	58.6	48.5	50.0	57.7			
全国学力状況調査	3 年	国語	明日香村	77.1	79.0	78.0	82.0	中止	68.0	71.0	77.0	58.9	53.0		
			奈良県	75.9	78.0	76.0	72.0		62.0	68.0	67.0	56.0	53.0		
			全国	75.6	77.4	76.1	72.8		64.6	69.0	69.8	58.1	54.3		
		数学	明日香村	63.5	72.0	67.0	68.0		57.5	46.0	60.0	56.5	45.0		
			奈良県	63.6	65.0	66.0	59.0		54.3	50.0	50.0	51.6	47.0		
			全国	62.2	64.6	66.1	59.8		56.9	51.4	51.0	52.5	48.3		
		理科	明日香村	-	-	67.0	-		-	49.0	-	-	53.5		
			奈良県	-	-	64.0	-		-	48.0	-	-	49.0		
			全国	-	-	66.1	-		-	49.3	-	-	51.5		
		英語	明日香村				65.0		-	-	55.0	-	-		
			奈良県				56.0		-	-	45.0	-	-		
			全国				56.0		-	-	45.6	-	-		
		国語B	明日香村	67.3	72.0	60.0	※ 赤字 奈良県・全国を上回る。								
			奈良県	65.5	72.0	60.0									
			全国	66.5	72.2	61.2									
		数学B	明日香村	-	-	67.0									
			奈良県	-	-	64.0									
			全国	-	-	66.1									

■全国体力・運動能力・運動習慣調査の結果の推移

小学5年生

小学5年生														
<男子>														
測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
握力(kg)	村	19.32	16.06	12.95	17.13	16.41	15.91	16.91	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	16.60	20.40	18.40	17.47	16.05
	県	16.65	16.58	16.29	16.30	16.18	16.26	16.11		15.90	15.96	16.02	15.82	15.81
	全国	16.63	16.55	16.45	16.47	16.51	16.54	16.37		16.22	16.21	16.13	16.01	15.96
上体おこし(回)	村	20.09	18.94	22.09	21.58	23.13	19.17	25.30		20.64	21.88	18.30	20.00	17.68
	県	19.34	19.43	19.29	19.42	19.60	19.71	19.87		18.62	18.92	18.74	19.03	19.26
	全国	19.54	19.56	19.58	19.67	19.92	19.95	19.80		18.90	18.86	19.00	19.19	19.46
長座体前屈(cm)	村	33.41	34.00	26.45	35.00	32.76	27.78	31.74		38.60	35.76	38.10	35.58	21.73
	県	32.48	32.88	32.95	32.55	32.69	32.67	32.54		32.85	33.36	33.47	33.52	33.13
	全国	32.73	32.87	33.05	32.87	33.16	33.31	33.24		33.48	33.79	33.98	33.79	33.88
反復横とび(点)	村	44.41	43.71	44.77	47.39	42.06	40.39	40.74		45.83	47.52	45.75	47.95	42.27
	県	41.20	41.74	41.47	42.05	41.61	41.91	41.93		40.26	40.65	40.94	40.68	40.98
	全国	41.41	41.61	41.60	41.97	41.95	42.10	41.74		40.35	40.36	40.60	40.66	40.89
20mシャトルラン(回)	村	46.68	49.88	39.05	64.70	55.06	43.57	59.61		41.71	62.46	50.85	55.21	38.67
	県	50.79	51.06	51.01	50.78	51.58	51.46	51.07		46.08	47.03	47.41	46.78	47.88
	全国	51.41	51.67	51.64	50.78	52.23	52.15	50.32		46.83	45.92	46.92	46.90	47.94
50m走(秒)	村	8.85	9.21	9.43	8.85	9.26	9.30	9.25		8.80	8.64	9.19	9.36	9.75
	県	9.30	9.31	9.33	9.32	9.34	9.32	9.36		9.39	9.45	9.36	9.44	9.43
	全国	9.38	9.38	9.38	9.32	9.37	9.37	9.42		9.45	9.53	9.48	9.50	9.46
立ち幅とび(cm)	村	154.14	154.12	143.81	156.70	129.06	144.26	155.17		156.92	169.92	155.55	158.68	142.82
	県	152.30	150.92	151.58	149.53	150.36	151.65	151.27		151.30	151.33	151.72	151.44	150.19
	全国	152.07	151.70	151.24	149.53	151.73	152.24	151.45		151.41	150.83	151.13	150.42	150.93
ボール投(m)	村	26.14	25.35	20.86	24.50	19.24	18.39	21.70		22.50	24.48	21.20	25.26	22.14
	県	23.45	23.33	22.64	22.57	22.75	22.37	22.14		20.75	20.68	20.82	20.90	21.16
	全国	23.19	22.90	22.52	22.42	22.52	22.15	21.61		20.58	20.31	20.52	20.75	21.06

中学2年生

中学2年生														
<男子>														
測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
握力(kg)	村	30.77	29.30	30.16	29.83	27.41	29.35	28.31	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため中止	26.65	30.94	28.71	27.54	25.88
	県	28.45	28.46	28.71	28.86	29.05	29.13	28.63		28.89	28.83	29.05	28.91	28.78
	全国	29.21	29.00	28.93	28.91	28.88	28.84	28.65		28.80	28.99	29.02	28.95	28.95
上体おこし(回)	村	30.65	34.45	29.63	29.73	27.29	26.26	28.25		29.15	27.05	27.10	26.96	26.38
	県	27.79	28.86	28.74	28.87	28.09	28.49	27.66		26.85	26.69	26.12	26.29	26.31
	全国	27.58	27.45	27.43	27.46	27.33	27.36	26.96		25.99	25.74	25.82	25.94	26.09
長座体前屈(cm)	村	42.65	48.13	46.21	45.00	42.24	41.48	40.00		35.50	39.29	42.95	50.83	43.38
	県	41.31	42.22	43.10	42.97	42.82	43.61	42.15		43.90	43.78	43.74	43.70	44.69
	全国	43.11	42.92	43.08	43.06	43.10	43.44	43.50		43.67	43.87	44.16	44.47	45.12
反復横とび(点)	村	58.81	58.18	56.63	56.13	54.53	52.70	54.00		52.05	50.05	61.06	57.13	57.56
	県	51.31	52.29	53.29	53.79	52.82	53.91	53.10		52.79	52.44	52.21	52.45	52.28
	全国	51.08	51.31	51.62	51.93	51.84	52.24	51.91		51.19	51.05	51.22	51.51	51.64
20mシャトルラン(回) 持久走 ※	村	88.61	98.09	86.74	89.45	77.06	79.57	85.69		431.60	81.84	70.57	77.91	75.31
	県	84.25	84.75	86.82	87.48	85.70	86.43	83.08		410.49	78.54	77.57	77.33	78.55
	全国	84.98	85.29	85.56	86.24	85.54	86.06	83.53		406.38	78.07	78.07	78.98	78.82
50m走(秒)	村	7.74	7.73	7.97	7.74	8.15	7.89	8.35		8.21	7.83	8.52	7.91	8.49
	県	8.02	8.01	7.93	7.93	7.97	7.90	7.95		7.95	7.96	7.97	7.94	7.93
	全国	8.04	8.03	8.01	8.03	8.00	7.99	8.02		8.01	8.06	8.01	7.99	8.00
立ち幅とび(cm)	村	195.48	199.62	196.95	207.74	198.12	197.52	193.69		189.40	204.74	194.00	192.21	180.69
	県	189.13	190.23	194.13	194.99	193.56	195.60	193.70		196.73	197.61	196.27	196.67	196.33
	全国	193.68	193.43	194.05	194.69	194.55	195.62	195.03		196.36	196.89	197.02	197.18	197.51
ボール投(m)	村	23.90	24.38	21.00	21.45	22.24	17.13	20.44		19.55	21.00	18.19	20.26	18.64
	県	20.23	20.74	20.55	20.46	20.45	20.74	20.32		20.22	20.56	20.44	20.59	20.75
	全国	21.01	20.86	20.65	20.59	20.51	20.49	20.40		20.31	20.28	20.40	20.57	20.74

※実施種目が選択できるため、R3年度は持久走を実施。

＜女子＞														
測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
握力 (kg)	村	17.94	17.21	17.39	15.16	16.22	15.54	17.29	新型コロナウイルス 感染拡大防止対策のため中止	16.21	18.86	17.70	15.53	17.08
	県	16.19	16.22	15.85	16.01	15.95	15.93	15.93		15.80	15.86	16.03	15.64	15.58
	全国	16.14	16.09	16.05	16.13	16.12	16.15	16.09		16.09	16.10	16.01	15.77	15.61
上体おし (回)	村	17.78	19.17	20.44	16.92	23.78	20.00	23.29		19.36	19.69	17.65	17.58	15.85
	県	17.59	17.94	18.10	18.31	18.52	18.74	18.91		17.56	17.87	17.69	17.90	18.07
	全国	18.06	18.26	18.42	18.60	18.80	18.96	18.95		18.08	17.97	18.05	18.16	18.36
長座体前屈 (cm)	村	40.78	32.28	34.17	39.36	39.83	35.96	40.86		40.86	40.69	41.22	41.42	32.58
	県	36.59	36.84	36.97	36.87	37.09	36.92	37.04		37.52	37.76	38.19	37.79	38.01
	全国	36.87	37.21	37.44	37.21	37.44	37.62	37.62		37.90	38.18	38.45	38.19	38.15
反復横とび (点)	村	41.78	38.22	41.41	40.40	40.89	36.63	38.71		43.85	45.00	40.35	40.74	40.55
	県	38.03	38.98	39.07	39.85	39.78	39.89	39.93		38.67	38.63	38.98	38.70	38.79
	全国	39.06	39.36	39.55	40.06	40.06	40.32	40.14		38.72	38.66	38.73	38.70	38.70
20mシャトル ラン (回)	村	37.33	32.44	31.35	38.36	45.00	36.58	44.23		35.93	55.08	38.17	41.47	28.38
	県	37.72	39.11	39.40	39.80	40.73	40.87	40.90		36.94	36.73	36.34	36.15	36.60
	全国	39.66	40.29	40.69	41.29	41.62	41.88	40.79		38.15	36.97	36.80	36.59	36.85
50m走 (秒)	村	9.43	9.59	9.86	9.50	9.58	9.61	9.84		9.20	9.09	9.55	9.87	9.89
	県	9.65	9.62	9.62	9.59	9.60	9.59	9.63		9.63	9.68	9.63	9.74	9.76
	全国	9.64	9.64	9.62	9.61	9.60	9.60	9.64		9.64	9.70	9.71	9.77	9.77
立ち幅 とび (cm)	村	151.67	153.41	140.29	139.63	136.50	142.33	146.57		156.29	162.00	143.78	145.05	136.58
	県	143.14	143.62	144.21	142.88	145.24	144.91	145.49		145.82	145.51	144.96	143.97	142.28
	全国	144.55	144.76	144.77	145.31	145.49	145.94	145.68		145.18	144.55	144.29	143.13	142.34
ボール 投 (m)	村	15.94	16.00	11.89	13.65	14.17	14.13	13.14		15.64	15.46	14.61	15.74	17.00
	県	14.21	14.20	14.02	14.11	14.37	14.07	13.79		13.48	13.37	13.61	13.30	13.26
	全国	13.94	13.90	13.77	13.88	13.93	13.77	13.61		13.30	13.17	13.22	13.15	13.11

＜女子＞														
測定項目		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
握力 (kg)	村	24.96	24.11	24.82	22.25	22.89	23.80	24.14	新型コロナウイルス 感染拡大防止対策のため中止	24.52	25.18	25.25	22.73	24.96
	県	23.61	23.33	23.50	23.65	23.85	24.06	23.89		23.68	23.27	23.24	23.15	23.07
	全国	23.76	23.70	23.68	23.75	23.78	23.87	23.79		23.43	23.21	23.15	23.18	23.15
上体おし (回)	村	24.33	25.78	21.47	25.81	24.26	26.40	23.05		21.74	23.55	20.73	24.09	24.39
	県	23.25	24.01	23.99	24.31	24.23	24.65	24.20		23.10	22.40	21.84	21.80	21.94
	全国	23.03	23.07	23.26	23.48	23.62	23.87	23.69		22.32	21.67	21.62	21.56	21.70
長座体前屈 (cm)	村	49.63	49.72	46.94	48.75	42.68	51.47	42.68		41.22	52.55	43.83	49.27	44.78
	県	43.80	45.57	45.45	45.32	45.14	45.54	46.10		46.84	46.39	45.90	46.22	47.06
	全国	45.12	45.23	45.53	45.46	45.58	46.22	46.32		46.20	46.07	46.27	46.47	46.99
反復横とび (点)	村	50.63	52.50	47.71	52.06	48.58	52.13	54.00		48.48	49.00	57.33	53.27	53.04
	県	44.85	46.27	46.92	47.38	47.43	48.03	48.10		47.45	46.86	46.65	46.36	45.92
	全国	45.27	45.63	46.09	46.60	46.75	47.37	47.28		46.25	45.81	45.65	45.65	45.74
20mシャトルラン (回) 持久走 ※	村	49.88	59.56	51.53	64.69	54.68	60.53	61.36		304.05	49.09	50.33	70.82	47.70
	県	55.66	57.97	56.24	58.28	57.52	59.46	58.32		309.80	52.09	49.94	49.20	49.77
	全国	57.20	57.77	58.06	58.80	58.79	59.87	58.31		297.62	51.60	50.70	50.67	50.60
50m走 (秒)	村	8.87	8.82	8.92	8.62	8.97	8.86	8.94		8.72	9.09	9.37	8.54	9.28
	県	8.90	8.88	8.84	8.84	8.81	8.75	8.80		8.85	8.92	8.97	8.99	8.97
	全国	8.88	8.87	8.84	8.83	8.81	8.78	8.81		8.88	8.96	8.95	8.96	8.97
立ち幅 とび (cm)	村	158.87	166.28	155.06	171.56	173.21	179.13	175.73		171.00	162.82	168.50	181.82	163.43
	県	162.50	163.24	166.83	166.86	167.20	169.66	168.85		169.39	167.81	166.41	166.26	165.49
	全国	166.18	166.53	167.28	168.28	168.40	170.26	169.90		168.15	167.04	166.34	166.32	166.44
ボール 投 (m)	村	12.29	13.78	13.00	14.38	14.63	12.33	12.77		13.59	13.27	13.08	14.00	13.29
	県	12.43	12.66	12.67	12.70	14.07	12.79	12.65		12.54	12.51	12.08	12.20	12.16
	全国	12.97	12.88	12.83	12.85	12.88	12.98	12.96		12.72	12.45	12.43	12.40	12.43

※ ■ 全国を上回る ■ 全国を下回る

■いじめ認知件数の推移

(単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課)

	明日香村			奈良県			全国		
	小学校	中学校	合計	小学校	中学校	合計	小学校	中学校	合計
H27	2	2	4	2,712	1,274	3,986	151,692	59,502	211,194
H28	2	2	4	1,686	615	2,301	237,256	71,309	308,565
H29	2	3	5	4,534	826	5,360	317,121	80,424	397,545
H30	5	0	5	6,054	1,055	7,109	425,844	97,704	523,548
R元	4	2	6	6,497	1,228	7,725	484,545	106,524	591,069
R2	2	0	2	6,502	895	7,397	420,897	80,877	501,774
R3	5	1	6	7,320	1,078	8,398	500,562	97,937	598,499
R4	0	2	2	7,011	1,056	8,067	551,944	111,404	663,348
R5	1	2	3	6,814	929	7,743	588,930	122,703	711,633
R6	0	2	2	6,939	1,099	8,038	610,612	135,865	746,477
R7	0	2	2	-	-	-	-	-	-

■不登校児童・生徒数の推移

(単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課)

	明日香村			奈良県			全国		
	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計	小学校	中学校	計
H27	1	1	2	339	1,094	1,433	27,583	98,408	125,991
H28	1	1	2	274	1,016	1,290	30,448	103,235	133,683
H29	1	0	1	324	1,086	1,410	35,032	108,999	144,031
H30	1	0	1	428	1,243	1,671	44,841	119,687	164,528
R元	2	0	2	650	1,470	2,120	53,350	127,922	181,272
R2	1	1	2	755	1,594	2,349	63,350	132,777	196,127
R3	0	4	4	1,013	1,988	3,001	81,498	163,442	244,940
R4	1	8	9	1,145	2,229	3,374	105,112	193,936	299,048
R5	3	1	4	1,337	2,354	3,691	130,370	216,112	346,482
R6	4	6	10	1,417	2,453	3,870	137,704	216,266	353,970
R7	4	7	11	-	-	-	-	-	-

■教育相談件数の推移

(単位：件、各年度3月31日現在、出典：明日香村教育推進課)

		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
相談者（実数）		22	24	28	27	19	26	35	29	38	34	35
相談件数	不登校	51	42	53	36	112	58	19	13	38	15	3
	特別支援教育	93	89	110	112	53	12	14	24	41	42	35
	友人関係	0	0	0	0	0	3	2	1	1	5	0
	問題行動	87	39	12	0	0	0	42	48	20	37	37
	その他	17	56	34	67	42	77	35	31	11	9	2
	小計	248	226	209	215	207	150	112	117	111	108	77

① わくわくいろいろあそび利用者数の推移

対象園児：4・5歳児

(出典：明日香幼稚園)

年度	対象 園児数	開催回数	延べ 利用人数	平均 利用者数	利用率	利用率
					目標	実績
R4	45名	26回	786名	30名	60.0%	67.2%
R5	36名	15回	344名	23名	60.0%	63.7%
R6	28名	26回	486名	19名	60.0%	66.8%
R7	26名	21回	376名	18名	60.0%	68.9%
R8					70.0%	
R9					70.0%	

② にこにこルーム利用者数の推移

対象園児：3歳児

(出典：明日香幼稚園)

年度	対象 園児数	開催回数	延べ 利用人数	平均 利用者数	利用率	利用率
					目標	実績
R4	10名	7回	43名	6名	60.0%	61.4%
R5	9名	69回	456名	7名	60.0%	73.4%
R6	9名	69回	387名	6名	60.0%	62.3%
R7	9名	79回	546名	7名	60.0%	76.8%
R8					70.0%	
R9					70.0%	

③ こどものひろば利用者数の推移

対象園児：3・4・5歳児

(出典：明日香幼稚園)

年度	対象 園児数	開催回数	延べ 利用人数	平均 利用者数	利用率	利用率
					目標	実績
R6	37名	22回	297名	14名	50%	36.5%
R7	35名	24回	387名	16名	50%	46.1%
R8					50%	
R9					50%	

■楽スポ会員数の推移

(単位：人、出典：NPO法人楽スポあすか)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
0歳～19歳	197	192	221	231	245	236	214	177	181	180	157	147	154
20歳～39歳	58	58	63	60	70	59	69	59	62	49	59	60	58
40歳～59歳	115	103	117	114	145	138	126	120	111	111	106	88	98
60歳～79歳	104	116	120	131	142	146	162	146	165	152	148	148	130
80歳～	13	14	16	17	27	30	31	35	35	43	42	40	40
合計	487	483	537	553	629	609	602	537	554	535	512	483	480

20代から59代の年齢層が、少ないことが課題。

■近隣公園利用者数の推移

(単位：人、出典：明日香村教育推進課)

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
多目的グラウンド	990	3,891	9,378	9,383	9,939	9,672	10,294	11,240	15,413	5,972	4,709	15,145	15,818
テニスコート	1,331	4,502	8,254	7,540	7,378	5,572	3,551	4,567	6,887	3,346	5,606	5,749	5,081
合 計	2,561	8,453	17,834	17,348	17,672	15,354	13,955	15,907	22,400	9,568	10,315	20,894	20,899

■各種スポーツ大会参加者数の推移

(単位：人、出典：明日香村教育推進課)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
飛鳥ハーフマラソン	—	—	—	—	—	—	—	—	2,726	2,587	2,685	2,869	2,998
球 技 大 会	265	237	215	155	199	179	174	(中止)	(中止)	57	32	88	—
軽 ス ポ ー ツ	95	120	112	72	69	74	81	(中止)	28	25	32	34	—
村 体	(中止)	800	1,200	1,200	1,200	1,200	1,500	(中止)	(中止)	(中止)	1,000	1,000	1,000
運 動 会	—	—	—	—	—	—	—	—	—	650	—	—	—
レクリエーションフェス	—	—	—	—	—	—	—	—	262	—	—	—	—
駅 伝 大 会	349	438	364	353	272	460	500	(中止)	(中止)	171	199	199	(中止)
合 計	709	1,595	1,891	1,780	1,740	1,913	2,255	0	3,016	3,490	3,948	4,190	3,998

※球技大会：ソフトボール、グラウンド・ゴルフを実施。

※軽スポーツ大会：グラウンド・ゴルフを実施。

※R4年度は村民体育祭の代替えとして、自由参加型の運動会を実施。

■公民館講座等参加者数の推移

(単位：人、出典：明日香村教育推進課)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
飛鳥史学文学講座	1,666	1,316	1,246	1,311	1,451	1,593	1,492	1,265	1,565	2,008	1,826	1,929	2,018
ふるさと歴史講座	139	144	147	187	202	145	108	82	11	47	10		
匠講座：陶芸講座	72	90	102	96	114	102	120	90	66	96	66	84	84
匠講座：ガラス工芸						30	42	42	48				
英会話（初）講座	285	315	285	315	266	168	196	182	154	196	240	238	144
英会話（中）講座	270	255	225	168	182	182	140	98	84	140	75	112	108
手話講座								84	161	184	184	230	264
公民館講座（単発年6回）												133	120
自分へのごほうび講座				77	56	47	33	32					
親子わくわく教室		24	18	20	54	28	25	34	32	5	5		
手話講座								144	161	6	24		
合 計	2,432	2,144	2,023	2,174	2,325	2,295	2,156	2,053	2,282	2,682	2,430	2,726	2,738

■図書室利用者数の推移

(単位：人、出典：明日香村教育推進課)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
中学生以下	1,205	1,241	1,138	944	788	855	730	695	864	621	500	-	-
高 校 生	477	133	81	8	10	48	39	16	24	47	9	-	-
一 般	2,915	3,242	3,501	3,244	3,081	3,086	2,470	2,426	2,804	2,313	2,102	20,200	24,687
合 計	4,597	4,616	4,720	4,196	3,879	3,989	3,239	3,137	3,692	2,981	2,611	20,200	24,687

■文化・芸術イベント来場者数の推移

(単位：人、出典：明日香村文化財課)

年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
「明日香の匠」展	-	2,114	1,641	1,700	1,740	2,023	1,863	1,876	2,037	2,584	2,536	2,845	2,255
音 の 風 景	-	220	230	230	220	210	260	-	-	-	-	-	-
飛鳥アートヴィレッジ	834	-	-	610	612	-	1,200	-	-	-	-	-	-
合 計	834	2,334	1,871	2,540	2,572	2,233	3,323	1,876	2,037	2,584	2,536	2,845	2,255

飛鳥アートヴィレッジ

※H26：屋外展示のため、来場者数を集計できなかった。

※H27：事業未実施

※H30：2カ年事業の1年目で、作品展示等は行っていない。

※R1：犬養万葉記念館入館者のみカウント

■国宝高松塚古墳壁画修理作業室の公開 来場者数

(単位：日・人)

区分	開 催 期 間	開催日数	来場者数
1	令和7年5月17日（土） 5月23日（金）	7	1,418
2	令和7年7月26日（土） 8月1日（金）	7	1,016
3	令和7年10月4日（土） 10月10日（金）	7	1,215
4	令和8年1月17日（土） 1月23日（金）	7	1,385

■牽牛子塚古墳来場者数

(単位：人)

		R4	R5	R6	R7
来場者数	無料	33,480	37,670	45,757	42,761
	有料	2,077	1,081	1,288	1,837
	合計	35,557	38,751	47,045	44,598

令和7年度 日本遺産関連イベント等一覧

日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

【イベント】

項 目	開催日（期間）	開 催 場 所	主催者等	種 別	参加者	備 考
令和の万葉大茶会2025	6/6(金)、6/7(土)	大阪府大阪市此花区	令和の万葉大茶会2025 飛鳥・万博大会実行委員会事務局	明日香村		チラシ・ノベルティ等の配布 200部
ふるさと回帰フェア2025	9/20(土)、9/21(日)	東京国際フォーラム	公益社団法人 ふるさと 回帰・移住交流推進機構 (JOIN-FURUSATO)	橿原市	43名	ノベルティの配布50部
ツーリズム EXP0 ジャパン 2025	9/25(水)・9/26(木) 9/27(金)・9/28(土)	愛知県国際展示場	公益社団法人 日本観光 振興協会 一般社団法人 日本旅行 業協会 日本政府観光局(JNTO)	協議会		チラシ・ノベルティ等の配布 500部
日本女性会議2025橿原	10/3(金)・10/4(土) 10/5(日)	奈良県橿原文化会館、奈良県社会福祉総合センター、かしはら万葉ホール	日本女性会議2025橿原実行委員会事務局	協議会		チラシ・ノベルティ等の配布 1700部
第14回おもしろ歴史フェスティバル	10/4(土) 10/5(日)	唐古・鍵遺跡公園	歴史フェスティバル実行委員会（奈良新聞社）	協議会		粘土ワークショップ 100名 チラシ・ノベルティ等の配布 60部
日本遺産フェスティバル	10/25(土)・10/26(日)	岡山県倉敷市	日本遺産事務局	協議会		粘土ワークショップ400名 チラシ・ノベルティ等の配布 550部
乙巳の変と皇極・斉明天皇展 推し飛鳥人総選挙	11/8(土)～12/26(金)	国営飛鳥歴史公園	国営飛鳥歴史公園管理センター	明日香村	923名	皇極・斉明天皇 2位（164票）
乙巳の変と皇極・斉明天皇展 乙巳の変スタンプラリー	11/8(土)～12/26(金)	国営飛鳥歴史公園、飛鳥寺、川原寺、談山神社、かしはらナビプラザ	国営飛鳥歴史公園管理センター	明日香村	6,247名	
セミナー&ワークショップ開催 (株)トリコラージュ	11/13(木)	明日香村商工会	明日香村商工会	協議会	20名	日本遺産魅力増進事業 戦略策定
古墳フェスはにこっと	11/23(日)	今城塚公園・いましろ大王の社 大阪府高槻市郡家新町48-8	はにこっと実行委員会事務局	明日香村		粘土ワークショップ276名 チラシ・チラシ・ノベル ティ等の配布 200部
クラシックカーフェスティバル	11/23(日)	明日香村橋21番地	アスカ美装	明日香村		チラシ・チラシ・ノベル ティ等の配布 200部
高取城まつり	11/23(日)	高取町内	高取町	高取町		チラシ・チラシ・ノベル ティ等の配布 200部
セミナー&ワークショップ開催 熊田順一氏（株JTB総研）	11/28(金)	明日香村商工会	明日香村商工会	協議会	15名	日本遺産魅力増進事業 戦略策定
橿原神宮参拝プログラム・モニターツアー開催	11/7(金) 12/3(水)	橿原神宮	明日香村商工会	協議会	25名	日本遺産魅力増進事業 高付加価値コンテンツ造成
セミナー開催 瀧浪貞子氏	12/12(金)	明日香村役場	明日香村商工会	協議会	56名	日本遺産魅力増進事業・戦 略策定
飛鳥と吉野を日本遺産でつなぐ・セミナー開催 石飛聡志氏（株mint）	12/12(金)	明日香村商工会	明日香村商工会	協議会	16名	日本遺産魅力増進事業 吉野地域連携
日本遺産・通訳ガイド育成業務	12/2(火)・12/23(火) 1/14(水)・1/20(火)	明日香村・橿原市内各地	明日香村商工会	協議会	延べ36名	日本遺産魅力増進事業 高付加価値コンテンツ造成
地域連携人材交流&セミナー及びワークショップ開催 石飛聡志（株mint）	1/17(土)～18日(日)	明日香村商工会、及び川上村	明日香村商工会	高取町	延べ25名	日本遺産魅力増進事業 吉野地域連携
日本遺産マルシェ	2/14(土)・2/15(日)	有楽町駅前広場・東京交通会館	日本遺産事務局	協議会		粘土ワークショップ100名 チラシ・ノベルティ等の配布 400部
飛鳥ハーフマラソンフェスタ	3/8(日)	国営飛鳥歴史公園キトラ古墳周辺地区	明日香村	協議会		粘土ワークショップ50名 チラシ・ノベルティ等の配布 200部

令和7年度 日本遺産関連イベント等一覧

日本遺産「飛鳥」魅力発信事業推進協議会

【講演会等】

項 目（演題）	開催日（期間）	開 催 場 所	主催者等	種 別	参加者	備 考
あすか学	通年	高取国際高校 明日香村内	高取国際高校	明日香村	25名	日本遺産PR 三女帝をテーマにした学習 座学、現地見学塔
老人会講座	11/14（金）	明日香村内	明日香村老人会	明日香村	60名	日本遺産PR、チラシ等配布 課長補佐 西光慎治、 係長 長谷川透によるツアー
乙巳の変と皇極・斉明天皇展 講演会「大化改新と女帝の時代」	11/16（日）	国営飛鳥歴史公園	国営飛鳥歴史公園管理セ ンター	明日香村	54名	相原嘉之氏による講演
歴史街道関西講演会 「飛鳥時代 女帝が翔けた時・日本の夜明 け」	11/22（土）	大阪商工会議所	歴史街道協議会講演会	明日香村	200名	日本遺産PR、チラシ等ト配布 課長補佐 西光慎治による講演
日田市日本遺産講座	12/4（木）	日田市市役所	日田市	協議会	80名	日本遺産PR、パンフレット配布 課長補佐 西光慎治による講演 ワークショップ、古代衣装体験
文化財課連続講座	12/20（土）、1/25（日）	東京まほろば館	明日香村	明日香村	100名	日本遺産のPR 係長 長谷川透 課長補佐 西光慎治による講演

【展示】

乙巳の変と皇極・斉明天皇展 企画パネル展	11/8（土）～12/26（金）	国営飛鳥歴史公園	国営飛鳥歴史公園管理セ ンター	明日香村	14,005名	
乙巳の変と皇極・斉明天皇展 乙巳の変衣装展	11/8（土）～12/26（金）	国営飛鳥歴史公園	国営飛鳥歴史公園管理セ ンター	明日香村	7,235名	

【常設案内展示】

項 目	開催日（期間）	開 催 場 所	主催者等	種 別	参加者	備 考
かしはら観光インフォメーションセンター神宮前	4/1（月）～3/31（月）	かしはら観光インフォメーションセンター神宮前	橿原市観光協会	橿原市観光協会		センター内の壁面に日本遺産「飛鳥を翔た女性たち」のパネルを掲出
道の駅「飛鳥」	4/1（月）～3/31（月）	道の駅「飛鳥」 総合案内所「飛鳥びとの館」	一般社団法人 飛鳥観光協会	飛鳥観光協会		日本遺産を前面に出した案内所で常設パネル展示及びPR
明日香村埋蔵文化財展示室	4/1（月）～3/31（月）	明日香村埋蔵文化財展示室	明日香村	明日香村		日本遺産を前面に出した展示室で常設パネル展示及びPR
明日香村民俗資料館	4/1（月）～3/31（月）	明日香村民俗資料館	明日香村	明日香村		常設パネル展示及びPR
高取町観光案内所「夢創館」	4/1（月）～3/31（月）	高取町観光案内所「夢創館」	一般社団法人 高取町観光協会	高取町観光協会		日本遺産を前面に出したポスターおよびチラシによるPR

■「明日香村まると博物館フォーラム」開催状況

	会場名	開催日	会 場	参加人数	テ ー マ	講 師
1	大阪会場	14. 8. 11	大阪国際交流センター	860人	キトラ古墳壁画 「四神・十二支像に秘められた思想」	河上 邦彦（奈良県立橿原考古学研究所副所長） 上村 淳之（京都市立芸術大学副学長） 綱干 善教（関西大学名誉教授）
2	広島会場	14. 12. 1	広島JAビル	450人	亀形石造物 「よみがえる斉明天帝の水と石の王朝」	辰己 和弘（同志社大学助教授） 金子 裕之（奈良文化財研究所発掘調査部長） 千田 稔（国際日本文化研究センター教授）
3	名古屋会場	15. 2. 16	名古屋国際会議場	650人	最古の貨幣 「東アジアの帝国を目指した古代日本の実像」	松村 恵司（奈良文化財研究所発掘調査部考古第2調査室長） 栗原永遠男（大阪市立大学教授） 門脇慎二（京都府立大学名誉教授）
4	東京会場	15. 6. 29	よみうりホール	1, 000人	「飛鳥時代の精神生活」	水野 正好（奈良大学教授） 田辺 征夫（奈良文化財研究所埋蔵文化財センター長） 上野 誠（奈良大学助教授）
5	神戸会場	15. 8. 24	神戸国際会議場	600人	「古代東アジアの中の飛鳥」	猪熊 兼勝（京都橘女子大学教授） 絹谷 幸二（東京芸術大学教授） 永島岬臣慎（国際文化研修所長）
6	福岡会場	16. 2. 22	都久志会館	600人	「王申の乱と天武・持統の実像」	菅谷 文則（滋賀県立大学教授） 和田 萃（京都教育大学教授） 武田佐知子（大阪外国語大学教授）
7	横浜会場	16. 6. 27	横浜新都市ホール	900人	「飛鳥京に眠る貴人たち」	白石太一郎（奈良大学教授） 井沢 元彦（作家）
8	京都会場	16. 11. 28	京都シルクホール	450人	「飛鳥時代の仏教」	中西 進（京都市立芸術大学学長） 豊田 有恒（作家）
9	高松会場	17. 2. 20	サンポートホール高松	350人	「飛鳥京を歩いた渡来人たち」	木下 正史（東京学芸大学教授） 里中満智子（漫画家）
10	東京会場	17. 8. 21	よみうりホール	700人	「飛鳥発 歴史遺産をどう活かすか」	川野邊 涉（東京文化財学研究修復材料研究室長） 佐古 和枝（関西外国語大学教授） 西村 幸夫（東京大学教授）
11	東京会場	18. 7. 22	よみうりホール	1, 100人	「発掘された蘇我氏の飛鳥」	吉村 武彦（明治大学教授） 永野 正好（奈良大学名誉教授）
12	札幌会場	19. 8. 18	札幌サンプラザ コンサートホール	500人	「飛鳥時代の異境の人々」	工藤 雅樹（福島大学名誉教授・前東北歴史博物館長） 和田 萃（京都教育大学名誉教授）
13	大阪会場	20. 8. 23	エルおおさか エルシアター	800人	「古代の飛鳥と難波」	里中満智子（マンガ家） 中尾 芳治（元帝塚山大学教授） 横山 洋（大阪歴史博物館企画広報課課長代理）
14	福岡会場	21. 7. 25	エルガーラホール	500人	「装飾・壁画古墳の魅力-高松塚と九州の古墳の保存と活用」	三輪 喜六（九州国立博物館長） 松村 恵司（文化庁文化財鑑定官） 石山 毅（前九州歴史博物館参事）
15	名古屋会場	22. 7. 10	東建ホール	400人	「飛鳥と渡来人へ古代国家を支えた人々」	亀田 修一（岡山理科大学教授） 木下 正史（東京学芸大学特任教授）
16	福岡会場	23. 7. 30	九州国立博物館 ミュージアムホール	320人	「斉明天皇と飛鳥～牽牛子塚古墳の発掘から」	白石太一郎（近つ飛鳥博物館館長） 上野 誠（奈良大学教授）
17	東京会場	24. 7. 14	よみうりホール	700人	「高松塚古墳壁画発見40年～保存と活用～」	松村 恵司（奈良文化財研究所 所長） 建石 徹（文化庁文化財部古墳壁画対策調査官）
18	島根会場	25. 7. 14	島根県民会館 中ホール	250人	「古代の飛鳥と出雲～斉明天皇とその時代～」	和田 萃（京都教育大学名誉教授） 黒田 龍二（神戸大学工学部研究科教授）
19	鹿児島会場	26. 7. 21	かごしま県民交流センター 大ホール	300人	「倭人と飛鳥～7世紀の日本列島」	田辺 征夫（奈良県立大学特任教授） 永山 修一（ラ・サール学園教諭）
20	東京会場	27. 8. 23	よみうりホール	900人	「飛鳥と蘇我氏～都塚古墳をめぐる～」	千田 稔（奈良県立図書館情報館館長） 仁藤 敦史（国立歴史民俗博物館教授） 米田 文孝（関西大学文学部教授）
21	東京会場	28. 7. 3	銀座プロッサム	700人	「推古女帝の時代～飛鳥を翔た女性たち～」	里中満智子（マンガ家） 吉村 武彦（明治大学名誉教授）
22	東京会場	29. 7. 23	よみうりホール	600人	「飛鳥の女性と仏教」	清水 昭博（帝塚山大学教授） 澤田 曜子（作 家）
23	東京会場	30. 8. 26	明治大学アカデミーホール	1, 000人	「蘇我氏の古墳」	今尾 文昭（関西大学非常勤講師） 吉村 武彦（明治大学名誉教授） 若狭 徹（明治大学准教授）
24	東京会場	1. 8. 4	よみうりホール	1, 000人	「大化の改新」	吉村武彦（明治大学名誉教授） 鶴見泰寿（橿原考古学研究所附属博物館指導学芸員） 相原嘉之（明日香村文化財課長） 長谷川 透（明日香村文化財課主任技師）
25	オンライン	3. 12. 24 ～4. 1. 31	収録会場・明日香村健康福祉セン ター「たちばな」	1, 255人	「飛鳥の宮殿から飛鳥京へ」 「世界遺産登録と中尾山古墳」	猪熊兼勝（京都橘大学名誉教授） 西光慎治（明日香村教育委員会文化財課課長補佐）
26	東京会場	4. 11. 20	よみうり大手町ホール	300人	高松塚古墳壁画発見五十周年記念 第20回明日香村まると博物館フォーラム 「未来へつなぐ高松塚」	森岡 秀人（奈良県立橿原考古学研究所共同研究員） 建石 徹（国立文化財機構東京文化財研究所保存科学センター長）
27	大阪会場	6. 2. 23	エル大阪	200人	キトラ古墳壁画発見40周年記念～未来へつなぐキトラ～	来村 多加史（阪南大学教授） 建石 徹（国立文化財機構東京文化財研究所保存科学センター長）
28	東京会場	7. 3. 20	有楽町よみうりホール	550人	聖徳太子と飛鳥	清水 昭博（帝塚山大学教授） 澤田 曜子（作家）
29	福岡会場	8. 2. 23	JR九州ホール	300人	齊明天皇と筑紫	上野 誠（國學院大学教授） 西本 昌弘（関西大学名誉教授）
				17, 385人		